

第5次遠別町社会教育中期計画

平成23年度～平成27年度

ともに学び
ともに創る
えんべつの未来

「明日の遠別をつくる人づくり」



遠別町教育委員会

第5次遠別町社会教育中期計画について

遠別町教育委員会

教育委員長 清水光子

今日の地域社会は、少子・高齢化をはじめ、経済の低迷、デジタル情報化などグローバルな課題や問題が身近になっているとともに、自治体においては、効率的な行財政の推進が求められるなど大変厳しい状況におかれており、町民と行政が一体となったまちづくりが求められています。

このように移り変わりの激しい社会情勢に対応するため、「遠別町が目指す社会教育」の将来像を明らかにし、個性的で創造性豊かな人材を育成する「人づくり」が必要とされています。

「人づくり」は、地域づくりの基本であり、地域課題や問題を的確にとらえ、これらの問題をだれもが自分のこととして考え、様々な学習展開と実践を行うとともに、学びにより町民相互の交流を深めることで、明るく豊かな地域を創造する人材を育成していかなければなりません。

生涯学習社会を目指し、明るく活気にあふれる「人づくり」を進めるには、いつでも、どこでも、だれでも自由に学びを楽しみ、学びの成果を生かせるような環境づくりが必要であり、効果的で魅力ある事業展開が望まれています。

本計画は、「ともに学び ともに創る えんべつの未来」を基本理念に、町民だれもが意義や趣旨を理解できるよう「みんなの目標」、さらに教育行政が目指す目標も町民にわかりやすく設定させていただいたところでもあります。

このことにより、本計画のねらいを町民に理解していただくため、計画の概要を全戸配布し、基本目標の「明日の遠別をつくる人づくり」を積極的に進めていこうと考えております。

本計画策定にあたり、諮問に対する答申を賜り、多大なるご協力をいただいた社会教育委員、体育指導委員の皆さまに心より感謝を申し上げます。

第5次遠別町社会教育中期計画

ともに学び ともに創る えんべつの未来

目 次

○計画の基本的観点について	1
・ 計画策定にあたって	
・ 計画の内容	
・ 計画の主役	
・ 計画の基本的視点	
・ 計画の期間	
・ 計画の実効性	
○ともに学び ともに創る えんべつの未来	3
・ 基本理念	
・ 基本目標	
・ 基本方針	
・ 推進目標	
・ 遠別町教育目標	
○基本計画別各種施策	5
○現状と課題	22
○第4次遠別町社会教育中期計画の評価	25
○資料編	50
・ 答申文	
・ 諮問文	
・ 策定経過	
・ 策定委員名簿	
・ 策定委員会組織図	
・ 町民憲章	
・ さわやかスポーツの町宣言文	

計画の基本的観点について

「ともに学び ともに創る えんべつの未来」

◆計画の基本的観点について

◎計画策定にあたって

本町の社会教育は、「学びによるまちづくり」を視点とした『学びから広がる「みんなの輪」』をテーマに、町民が本計画の意義や趣旨を理解できるよう「町民の目標」を明確にし、さらに、そのために教育行政が目指す目標も町民にわかりやすく設定した第4次遠別町社会教育中期計画（平成18年度～平成22年度）に基づき、「町民主導による生涯学習」、「地域に学び地域に生かす生涯学習」、「新しい地域課題に対応した生涯学習」、「学習の成果を評価できる環境づくり」を視点に各種事業をすすめてきました。

平成18年に教育基本法が改正され、第3条では「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と明記され、その生涯学習の理念を推進するためには、今後の社会教育の進むべき指針を定め、目標化する必要があります。

遠別町をとりまく状況は、人口の減少、少子高齢化、経済の低迷と大変厳しい社会情勢を迎え、自治体として行財政改革の推進が求められる中であって、社会教育関係予算の縮小、町民の学習ニーズも時代とともに変化し、デジタル情報化時代となり町民の学習に対する要求は益々多様化・複雑化してきています。

そこで、移り変わりの激しい社会情勢の中、町民の生涯学習活動を底辺から支える計画が必要となってきており、第4次の計画の反省を活かし、より町民の視点に基づいた社会教育を推進していく必要が求められています。

この第5次遠別町社会教育中期計画は、「第5期遠別町総合計画」（平成18年度～平成27年度）をふまえ、「遠別町民憲章」及び「遠別町教育目標」の具現化を図るための社会教育行政の役割を示すとともに、生涯学習社会の推進のために策定します。

◎計画の内容

- ・5年間で遠別町が目指す社会教育の将来像を明らかにします。
- ・社会教育の推進に必要な基本目標を設定します。
- ・具体的事業の設定ではなく、「遠別町が目指す社会教育」を明らかにします。

◎計画の主旨

- ・「町民が主役」となるような計画とします。

◎計画の基本的視点

第4次の計画では、誰もが本計画の意義や趣旨を理解できるよう「町民の目標」を明確にし、そのために教育行政が目指す目標も町民にわかりやすく設定しました。

この第5次遠別町社会教育中期計画におきましても、誰もが本計画のねらいを理解できるよう「基本目標」と「推進目標」を明確にし、遠別町教育目標を基本とした生涯学習活動を積極的に展開できるような計画にする必要があります。

・町民が主役の生涯学習

町民の自主性・自立性を尊重し、町民主体の学習活動を推進します。

・地域に根ざした生涯学習

遠別町の地域特性を活かした特色ある学習活動を推進します。

・学習成果を発揮できる環境づくり

学習した成果を活かすことができる仕組みの充実を図ります。

・あいさつを交わしあえる地域づくり

町民みんなが笑顔あふれる町づくりを目指します。

上記4点をふまえ、本計画における「基本目標」と「推進目標」を設定しました。

○基本目標

「明日の遠別をつくる人づくり」

- ・活力ある人（自立）
- ・笑顔ある人（躍動）
- ・助け合う人（協働）

○推進目標

社会教育活動：「楽しく学ぼう！」

文化活動：「豊かな心を育もう！」

スポーツ活動：「スポーツを楽しもう！」

◎計画の期間

- ・平成23年度から平成27年度までの5年間とします。

◎計画の実効性

- ・年度毎に評価することで現状と課題を明確にし、実効性の高い計画を目指します。

第5次遠別町社会教育中期計画

(平成23年度～平成27年度)

～ 基本理念 ～

ともに学び ともに創る えんべつの未来

～ 基本目標 ～

「明日の遠別をつくる人づくり」

活力ある人
(自立)

笑顔ある人
(躍動)

助け合う人
(協働)

～ 基本方針 ～

「いつでも、どこでも、だれでも」

～ 推進目標 ～

社会教育活動「楽しく学ぼう！」

文化活動「豊かな心を育もう！」

スポーツ活動「スポーツを楽しもう！」

楽しく学ぼう！

みんなの目標

- ・自分にあった学びを見つけよう
- ・いつも夢と希望をもって学習しよう
- ・自ら楽しく学び、伝え、行動しよう
- ・ボランティア活動に参加しよう

行政の目標

- ・学校と地域が一体でまちづくりを担う人材の育成
- ・学習に関する情報提供と相談体制の充実
- ・効果的な社会教育施設の管理運営

豊かな心を育もう！

みんなの目標

- ・文化活動への関心を高めよう
- ・本をたくさん読もう
- ・団体・サークル活動で仲間をつくろう
- ・遠別の自然・歴史・文化を知ろう

行政の目標

- ・文化によるまちづくりの推進
- ・読書に親しむ機会の拡充
- ・地域の特色を生かした文化の推進

スポーツを楽しもう！

みんなの目標

- ・いろいろなスポーツを体験しよう
- ・スポーツでさわやかな汗を流そう
- ・スポーツで心と体を鍛えよう

行政の目標

- ・スポーツに親しむ機会の拡充
- ・特色あるスポーツ活動の推進
- ・効果的なスポーツ施設の管理運営

遠別町教育目標

- 1 きびしさに耐え たくましく生きるために健康づくりに励む人
 - (1) スポーツを愛好し、体力、気力の増進につとめる。
 - (2) 保健衛生に関心をもち、改善の工夫とよい習慣を身につける。
 - (3) 人命を尊重し、安全な生活に心がける。
- 2 香り高い文化を育てるために 情操をみがく人
 - (1) 郷土の自然を愛し、地域環境の整備につとめる。
 - (2) 郷土文化と開拓の歴史を理解し、豊かな生活文化の創造につとめる。
 - (3) 優れた芸術・文化にふれ、豊かな感性を育てる。
- 3 豊かなくらしを拓くために 勤労を愛する人
 - (1) 勤労を愛し、生産と創造の喜びを知り、生活の向上をはかる。
 - (2) 郷土の近代化をめざし、知識や技能を積極的に身につけ、活用をはかる。
 - (3) 時代に即した、明るく合理的な生活様式の確立をはかる。
- 4 生きがいの持てる生活を築くために 学習を続ける人
 - (1) 自ら学習する機会を求め、広く生活向上をめざす。
 - (2) 自分の目標達成や、与えられた仕事の遂行につとめる。
 - (3) 余暇を善用し、豊かでうるおいのある生活をきずく。
- 5 みんなの幸せを願い 社会のためにつくす人
 - (1) 家庭教育機能を高めると共に、社会秩序保持のために進んで活動する。
 - (2) みんなの幸福を考えて行動し、よりよい社会の実現につくす。
 - (3) 国際感覚を身につけ、人類の幸福と平和を求める。

基本計畫別各種施策

第5次遠別町社会教育中期計画 基本計画別各種施策

評価基準	A：効果があった（計画以上に推進している）
	B：まあまあ効果があった（計画どおりに推進している）
	C：まだ取り組みが不十分（計画より遅れて推進している）
	D：効果がなく見直しが必要
	未：未実施

◎社会教育活動

事業名	社会教育委員会議	
町民の学習ニーズに応じた社会教育事業を展開するために、計画を立案するとともに、必要な調査研究より事業実施に向け適切な意見を述べる。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	いきいき子育て講座	
幼児期における家庭教育の重要性をふまえ、幼児(就学前)を持つ親を対象に、子育てにおける親の役割と子育ての具体的方法等について学習する機会を提供する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	遠別町しらかば学園大学	
高齢者の生涯学習として、組織的・計画的な学習プログラムを提供し、社会的視野を広めるとともに、新しい知識・技能の修得を図る。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	町民いきいき教室	
町民がさまざまな知識・技能等を学習する場として、町民のニーズに応じた各種教室・講座を開催する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	優良青少年顕彰	
青少年の優れた実践活動に対する表彰により、青少年のほこりと自信を高めるとともに、町民として豊かな心と実践力を育成することを目的とする。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	親子ふれあい講座	
心のふれあいを深めるとともに、子どもの心身の健全な発達を促進するため、親子がふれあう機会を提供する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	子どもチャレンジ教室	
様々な生活体験・自然体験活動を通して、子どもたちが自ら考え、判断し行動できる「生きる力」を育成する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	青少年健全育成のつどい	
本町の子どもをとりまく諸問題や青少年健全育成推進の効果的なあり方について協議し、今後の方策を考える。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	ボランティアの養成	
中学生・高校生に社会参加の機会を与え、ボランティア意識の啓発を図り資質を高めることを目的に開催する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	遠別町成人式	
新成人の門出を祝うとともに、大人としての自覚を持つこと、責任ある行動を促し励ますことを目的とする。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	生涯学習セミナー	
町民の生涯学習に対する理解と関心を高めるとともに、学習活動を実践するリーダー養成を目的に開催する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	生涯学習通信の発行	
生涯学習に関する情報を収集し、学習活動に必要な情報を広く町民に提供することをねらいとする。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	社会教育活動奨励事業（町民大学）	
生涯学習社会に対応した学習活動を展開していくため、「町民による町民のための学習の場」として、町民の手による学習組織を運営する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	学社融合事業の推進	
学校教育と社会教育（地域）が一体となった学習活動を展開することによって、子どもたちが自ら学び自ら考え主体的に判断し行動するなど「生きる力」の育成を図る。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	ゆかりの地との交流事業	
本町ゆかりの地である福井県越前市の児童と交流を深め、友情の輪を広げるとともに、将来に向かって両地域の友好と発展に寄与することをねらいとする。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	花いっぱい運動	
町内全域にわたりプランターを設置し、町民の環境美化運動への関心を高め、明るくきれいなまちづくりに寄与する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	社会教育関係団体の育成・支援	
社会教育関係団体の自主活動を促進し、団体活動が本来の目的に即して展開できるよう育成・支援する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	社会教育推進計画の作成	
生涯学習によるまちづくりを進めるため、「学びから広がる“みんなの輪”」をテーマにニーズに応じた魅力ある社会教育を計画的に推進するため、単年度の推進計画を策定する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	社会教育委員研修	
社会教育委員としての資質向上を図ることを目的に、各種研修活動を実施する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	リーダーバンクの登録・活用	
多様化する学習ニーズに対応するため、専門的な知識を持った人材を発掘・登録し、各種事業に積極的に活用することにより、地域の教育力の向上を図る。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	社会教育施設の開放	
町民の学習活動の拠点として、多くの町民に利用されるよう施設の機能を生かし、利用の立場に立った施設するため、効果的な管理運営を図る。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	ホームページの更新	
学びによるまちづくりをすすめるため、常にホームページを更新し、社会教育に関するあらゆる情報を町民に提供する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	子どものつどい	
本町に住む子どもたちの健やかな成長を願い、子ども会活動の充実と活性化を図り、年齢を超えてみんなで遊ぶ楽しさを知ってもらう。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

◎文化活動

事業名	各種作品展	
マナピィ・21の施設を有効活用するため、各団体・サークル等の学習発表の場として、各種作品を展示し、文化活動の推進に寄与する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	お話しの部屋・リトルキッズおはなし会	
幼児期からの読書への習慣付けと親子の読書活動を奨励し、図書室活動の充実を図る。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	図書室だよりの発行	
読書活動の推進を図るため、町民に広く読書に関するさまざまな情報を提供する。 (年間12回発行予定)		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	読書感想文コンクール	
児童生徒への読書活動の奨励と読書習慣の定着を図るとともに、読書を通して少年期における豊かな心を育てることを目的とする。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	小中学生書道美術展	
町民文化祭展示部門を利用して、児童生徒の文化活動の発表機会の場を提供する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	児童生徒芸術文化招聘事業	
児童生徒に優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供し、豊かな感性を育てることをねらいとする。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	新春！書き初め！	
日本の伝統文化である書き初めを実施し、書道の普及を図る。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	文化活動（生涯学習）情報提供	
学習活動や文化活動に関する情報を収集するとともに、町民のニーズに応じたさまざまな学習情報を提供する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	文化活動奨励事業（芸術鑑賞事業）	
優れた芸術文化にふれる機会を町民に提供することにより、文化活動への関心を高め、うるおいのある明るい町づくりに寄与することを目的とする。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	文化活動奨励事業（町民文化祭）	
町民に広く文化活動発表の場を提供し、文化創造意欲を高めるとともに、地域に根ざした文化活動の推進を図る。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	文化団体の育成・支援	
文化団体の自主活動を促進し、団体の本来の目的に即した魅力ある活動ができるよう育成・支援する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	郷土資料の収集・保存・展示	
郷土資料館の資料の充実と郷土の歴史・文化とふれあう機会の拡充をめざし、調査研究及び資料の収集・保存に努めるとともに、資料の展示活動を実施する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

◎スポーツ活動

事業名	体育指導委員会議	
各種体育行事の企画実施に参画協力し、体育レクリエーションの普及啓発をするとともに生涯スポーツの振興を目指すため、各施設の有効利用を図り指導・助言を行う。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	子どもバレーボール大会	
バレーボールを通じて子どもたちの交流の場を提供するとともに、スポーツに親しむ機会の充実を図る。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	遠別町教育長杯管内小学生バレーボール大会	
バレーボールを通じて、管内の小学生の交流を深めるとともに、技術の向上を図る。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	町民ミニバレーボール大会	
誰でも気軽にできる生涯スポーツとしてのミニバレーボールの普及をねらいに、町内会対抗の大会を開催するとともに、体力つくりの場を提供する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	子どもスキーの日	
冬を楽しむスポーツとして子どもたちへのスキーの普及とスキー技術の向上をねらいに、町内の子どもたちが気軽に参加できるイベントを開催する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	スポーツ活動奨励事業（さわやかスポーツ祭り）	
「さわやかスポーツの町」宣言にふさわしいスポーツイベントとして、町民の交流と体力つくりをねらいに開催する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	スポーツ活動奨励事業（エンベツふれあいマラソン大会）	
町内だけでなく、町外からも広くマラソン愛好者の参加者を募り、マラソンを通じて交流を深め、マラソンの普及と体力づくりを目的に開催する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	ちびっ子水泳教室	
水泳技能の向上と体力づくりをねらいに、小学1学年と2学年を対象とした教室を開催する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	ジュニアスイミングスクール	
水泳技能の向上と体力づくりをねらいに、小学3学年から6学年までを対象とした教室を開催する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	ジュニアスキー学校	
シーズンを通した教室を開設することにより、子どもたちがスキーへの関心を高め、冬を楽しむスポーツを推進する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	さわやかスポーツクラブ	
生活の中で積極的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しむことが出来るように、さまざまなスポーツ体験を目的とした教室を開催する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	B&G海洋体験セミナー・体験クルーズ	
団員を派遣し、体験航海と寄港地での海洋性スポーツの研修、さらに規律正しい団体生活により人間性豊かなリーダーを養成する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	小学生水泳大会	
水泳技能の向上と体力づくりをねらいに、小学生を対象とした大会を開催する。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

事業名	各体育施設の開放	
町民が生涯にわたりスポーツに親しめる環境を整備し、各施設の利用促進を図る。		
年度	評価	具体的な評価を記述
H23		
H24		
H25		
H26		
H27		

現 状 と 課 題

《遠別町社会教育の現状と課題》

◎社会教育活動

○学習機会

- ・社会教育委員が計画を立案したり、事業実施に向けての意見を述べる点では不十分である。各種事業に社会教育委員が関わる機会や社会教育活動に対する関心を高めるためにも、社会教育委員に対する日常的な働きかけが必要である。
- ・家庭教育事業では、小学校の協力のもと事業展開をしているが、今後は子育て支援センターとの連携も視野に入れることが重要である。
- ・親が「学び合う、助け合う」場づくりとして、行政機関の連携と、子育てネットワークの構築が必要である。
- ・高齢者大学では、学習テーマを学生の要求だけではなく、行政からの必要課題などが反映されているか。
- ・町民が学んだことを、行政として積極的に活かせる場づくりをしているか。
- ・親子がふれあい学ぶ機会が十分ではない。幼児センターなどに協力を求めながらニーズの掘り起こしを図るべきである。
- ・「生きる力」の育成を目的に、子どもの体験活動を実施しているが、近年は参加者数が減少傾向にある。今後は、親子での参加機会の検討や、少年団などと連携したプログラム展開が必要であると思われる。
- ・中高生のボランティア養成は、単年度計画ではなく、長期的な視野による計画が必要ではないか。
- ・生涯学習の理念に関わる学習機会として「生涯学習セミナー」を実施しているが、学び合うことへの意見交換の場も必要である。
- ・町民大学は、効果的に事業展開できているが、学びの機会を町民教室などと連動させること必要ではないか。
- ・学社融合では、地域の教育資源を活かした学習活動が効果的に展開されているが、学校と地域、そして行政が達成度合をさらに高めていくよう検討しなければならない。
- ・ゆかりの地との交流事業では、受入れ時のホームステイに抵抗があることがうかがえる。相互交流の未来を見据え、あり方と方向性を検討してどうか。
- ・環境美化と心を育む町ぐるみの運動である「花いっぱい運動」は、今後、継続することの必要性について検討しなければならない。
- ・「社会教育推進計画」は、計画段階で社会教育委員・体育指導委員に意見を求めていくよう見直しが必要である。
- ・中高生がボランティアとして社会参加できる機会として、「子どもチャレンジ教室」、「子どものつどい」など中高生が中心となった事業展開の検討も必要ではないか。

○団体・指導者育成

- ・ボランティアを指導することができる指導者の養成が必要である。
- ・町民の学びの成果を発揮できる場が必要である。
- ・各団体の自主・自立を促し、行政として団体が特徴ある活動ができるよう支援することが重要である。
- ・社会教育を推進していくうえで、社会教育委員は必要不可欠である。そのために、研修などを通して社会教育委員としての意識啓発、自己研鑽に努めてもらえるよう努力と創意工夫が必要である。

○情報提供

- ・高齢者が生きがいを持って学ぶ場を、行政として十分に発信することができているか。
- ・町民の学びの成果・効果を、広報誌などを通して十分に周知することができているか。

- ・ボランティアの活動状況を十分に周知することができているか。
- ・生涯学習通信を通じて事業などの紹介はしているが、町民が参加し、町民と共に考える場としての役割を検討してはどうか。
- ・交流事業の成果（活動内容）を、広く町民に周知することができているか。
- ・各団体の活動・事業が効果的に展開できるよう支援するためには、行政が持っている情報を提供しなければならない。
- ・各施設の有効利用と活性化のために、行政からの発信が重要ではないか。
- ・閲覧者の意見をホームページに活かすとともに、各種事業で町民が参加している場を発信する。

○施設管理・運営

- ・町民の学習活動の拠点である「生涯学習センター」を、利用する町民の立場に立った視点からとらえ、利用者の支援のために効果的な管理運営をしなければならない。
- ・各施設が有効に活用されているのか検証する。

◎文化活動

○学習機会

- ・生涯学習センターのロビーを活用した各種展示活動は、広く町民に鑑賞機会を提供することができているが、各文化系団体へ働きかけをし町民参加によるロビー活動を活発にしてはどうか。
- ・子育て支援の観点から「リトルキッズおはなし会」を幼児センターで実施していることは、とても効果的であると考えられる。
- ・「図書室だより」は、事業周知中心に発行しているが、図書室の利用を高めるため、読書の魅力や図書の紹介を積極的に周知する必要がある。
- ・「読書感想文コンクール」は、読書活動奨励と読書習慣定着のためには必要不可欠と考えられる。各学校と連携し児童生徒100%の参加を目指す。
- ・小学校～高校までを対象とした「児童生徒芸術文化招聘事業」は、現在のところ年1回の実施のため、低学年が理解しやすい内容の演目に偏っているため、補助金の活用や各種事業などと連携し、各年代にあった演目を鑑賞できるよう検討しなければならない。
- ・「新春！書き初め！」は、学社融合事業として実施している小学校の書写の成果を発揮する場として位置づけしているため、今後も小学校との連携・協力が必要不可欠である。
- ・町民のニーズに応じた芸術鑑賞の機会を提供できるよう努力する必要がある。
- ・「町民文化祭」は、町民が直接参加する機会として有意義ではあるが、参加団体の減少傾向が見受けられる。団体に限らず個人参加についても積極的に促進してはどうか。

○団体・指導者育成

- ・各団体の自主・自立を促し、行政として団体が特徴ある活動ができるよう支援することが重要である。

○情報提供

- ・町民文化祭展示部門で「小中学生書道美術展」、「幼児センター作品展」を実施しているが、今後は学校・幼児センターを通じ直接保護者に周知することも必要である。
(幼児センター作品展も同様)
- ・町広報誌、生涯学習通信、ホームページなどを活用し、学習活動や文化活動に関する様々な新鮮な情報を発信しなければならない。
- ・町民が郷土の歴史・文化とふれあう機会の拡充をめざすためには、「郷土資料館」についてのPRが不足している。

○施設管理・運営

- ・「郷土資料館」は、常時開館をしていないため機能・役割が停滞している。また、収蔵している資料の活用、および利用を促進するためには、町民が足を運びやすいマナビィ・21などで特別展示活動（特別展・移動展）を積極的に実施すべきではないか。

◎スポーツ活動

○学習機会

- ・各種体育事業の参加・協力機会などを通じて、「体育指導員」としての意識を高めたい。
- ・「子どもバレーボール大会」は、種目変更も含め検討しなければならない時期ではあるが、スポーツ体験機会を通じて子ども（中学生）達に何を学んでほしいのか再考すべきではないか。
- ・「教育長杯バレーボール大会」は、継続事業としての必要性、また管内事業の見直しに合わせて検討しなければならない。
- ・スポーツ体験機会が重要であるため、種目として「ミニバレー」にこだわらない町民大会を検討してはどうか。
- ・「子どもスキーの日」は学社融合事業として推進しているが、3者（学校教育、社会教育、地域）それぞれのメリット・デメリット、大会目的、学社融合事業としての効果などの共通理解を図り整理しなければならない。
- ・イベントと町内交流において「スポーツ祭り」は、一定の成果は得られているが、今後の継続について関係者と協議し総合的な判断を要する。
- ・「マラソン大会」は、学社融合事業（小学校・高校の校内マラソン）を兼ねるとともに、管内でも比較的参加者の多い大会であるため問題点も発生しているので、運営面について検討を要する。
- ・「水泳教室」では、指導者が不足しており、レベルごとに分けた細かな指導ができないため、参加者および指導者が持つ目標に到達できていない。
- ・スキークラブとの連携事業である「スキー教室」は、個人の目標が達成できるような事業展開を検討してはどうか。
- ・B&G財団事業は、全国各地の参加者と共に海洋体験や規律正しい団体生活を体験する貴重な機会であるので、今後は積極的なPR活動に努める。
- ・「水泳大会」は、水泳教室と連動し、個人の成果が目に見えるような取り組みも必要であるが、競技性とレクリエーションとのバランスがとれた事業展開が必要である。

○団体・指導者育成

- ・ニュースポーツを促進するためにも、参加者自身が指導者として活躍できるよう育成・支援してはどうか。
- ・水泳教室については、指導者確保の観点から、将来を見据え計画的に指導者を養成しなければならない。

○情報提供

- ・様々なスポーツを楽しんだり、体験することができるよう体験教室（スポーツクラブ）のメニューや、スポーツセンターが持っている用具などを積極的にPRし、町民が参加しやすい環境を整える。

○施設管理・運営

- ・各体育施設の老朽化が進んでいるため、計画的な整備を実施している。今後も効率的な改修や修繕を実施して町民の利用促進を図る。

第 4 次 計 画 の 評 価

第4次遠別町社会教育中期計画の評価

◎社会教育活動

事業名	社会教育委員会議							
町民の学習ニーズに応じた社会教育事業を展開するために、計画を立案するとともに、必要な調査研究より事業実施に向け適切な意見を述べる。								
主な議題 第1回（4月）・社会教育推進計画 ・各種研修会の参加 第2回（12月）・社会教育事業経過報告及び今後の社会教育事業 第3回（3月）・社会教育事業の反省及び評価、次年度に向けた課題								
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度				
参加人数	第1回	9/12	第1回	8/12	第1回	9/10	第1回	9/10
	第2回	11/12	第2回	7/12	第2回	9/10	第2回	7/10
	第3回	8/12	第3回	9/12	第3回	7/10	第3回	8/10
評価ランク	B		B		B		B	
教育委員会 総合評価	計画を立案、事業実施に向けての意見を述べる点では不十分と思われる。 （課題） ・社会教育委員に対する日常的な働きかけ～社会教育活動に対する関心を高める。 ・社会教育の日常活動を点として、線に結ぶ努力が必要							
策定委員 評価	・その通りと思います。特に社会教育委員一人一人の自覚の問題とも思います。							

事業名	いきいき子育て講座			
幼児期における家庭教育の重要性をふまえ、幼児(就学前)を持つ親を対象に、子育てにおける親の役割と子育ての具体的方法等について学習する機会を提供する。				
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	35（託児17）	120（託児9）	38	38
（第1）	7（託児6）	3（託児7）		
（第2）	6（託児6）	6（託児2）		
（第3）	22（託児5）	111		
評価ランク	B		B	
教育委員会 総合評価	平成20年度より、小学校の1日入学を活用し、新1年生の保護者を対象にした講座を実施。同学年の保護者を対象にしていることから講座趣旨を絞ることができる。今後も、小学校の協力を得ながら継続していくことが重要。 （課題） ・子どもの発達と学びを結びつける場づくりが十分であったか。 ・親たちが学びあう、助け合う場づくり、情報提供は。 ・行政機関での連絡は。			
策定委員 評価	・その通りと思います。就学前に親がどれだけ学習し、子育てに自信を持って、手間と時間をかけるかだと思います。			

事業名	遠別町しらかば学園大学			
	高齢者の生涯学習として、組織的・計画的な学習プログラムを提供し、社会的視野を広めるとともに、新しい知識・技能の修得を図る。			
学習内容	・講義 ・実技 ・交流 ・創作活動 ・クラブ活動			
修業年限	本科3ヶ年、大学院3ヶ年、修士課程は年限なし			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
学生人数	39	27	27	23
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	<p>学生数の減少傾向が続いているが、学習内容について学生と協議のうえ年度毎にテーマを設定したり、さらには、実施時期を見直すことにより、18年度から日帰りのバス遠足としていた修学旅行を21年度に1泊2日の日程で復活することができた。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習テーマが狭い範囲になっていないか。 ・学生の要求だけでなく、行政側の必要課題は反映されているか。 ・学生自身が、いきいきと学び、喜んでいるか。 ・生きがいを持って学ぶ姿勢を十分に外にアピールできているか。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・その通りと思います。 			

事業名	町民いきいき教室			
	町民がさまざまな知識・技能等を学習する場として、町民のニーズに応じた各種教室・講座を開催する。			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	—	18	218	137
①	—		(13)	(12)
②	—		(130)	(8)
③	—		(75)	(100)
④	—			(17)
評価ランク	—	B	A	A
教育委員会 総合評価	<p>町民のニーズに応えなければならない観点から、アンケート調査を実施し、要望の高いメニューを取り入れることで成果があったと思われる。さらには、経済課との連携による料理教室のように、今後も他部局と連携することが必要である。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民が、いきいき学べる場として十分か。 ・学習効果を情報提供できているか。 ・学んだことを活かせる場づくり、町民と町民とのコミュニケーションの場となっているか。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・その通りと思います。まず、継続することが大事で、いずれ町民の考えも改善されてくると思います。 			

事業名	優良青少年顕彰			
<p>青少年の優れた実践活動に対する表彰により、青少年のほこりと自信を高めるとともに、町民として豊かな心と実践力を育成することを目的とする。</p> <p>対象 25歳未満の青少年及び団体</p> <p>内容 勇気あふれる行動、親切な行動、地域活動に功績のあった者</p>				
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
表彰者人数	該当なし	該当なし	1	1
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	<p>被表彰者の推薦を町内駐在員・学校組織に依頼しているが、18年度、19年度においては該当者がなかった。</p> <p>20年度、21年度については、農業クラブ全国大会入賞を果たした遠別農業高等学校の生徒を顕彰している。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良青少年の掘り起しのため、働きかけは十分か。 ・文書通知は適切な時期か。 ・学校への働きかけ 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・これについて、学校としては優れた者がある場合は大いに推薦したいと思います。 			

事業名	親子ふれあい講座			
<p>心のふれあいを深めるとともに、子どもの心身の健全な発達を促進するため、親子がふれあう機会を提供する。</p>				
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
評価ランク	未	未	未	未
教育委員会 総合評価	<p>事業を決定し参加者を募集しているが、申込みが少なく、事業成果・効果が見込めず中止している状況が続いている。今後は幼児センターなどに協力を求めながら、ニーズの掘り起しを図りたい。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子が、ふれあい学ぶ機会が十分であったか。 ・学びへの誘いがもっと必要では。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では、親の側に余裕がないように思います。また、必要感がないとすれば、止めることも考えた方が良くと思います。 			

事業名	子どもチャレンジ教室			
	様々な生活体験・自然体験活動を通して、子どもたちが自ら考え、判断し行動できる「生きる力」を育成する。			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
登録者数	24	25	17	10
評価ランク	B	B	C	C
教育委員会 総合評価	<p>「生きる力」の育成には、何もかも事前に準備するのではなく、子どもたちに考えさせ、判断させ、行動させ、その結果が失敗でも、反省点を考えさせ、次回に活かせるようにフォローする必要がある。</p> <p>参加者が減少傾向にあり、参加者負担の軽減や事業形態について見直しが必要である。</p> <p>例) 1. 公費投入による参加者負担(参加料)の軽減 2. 参加者登録制からプログラムごとの個別実施制へ 3. 学校授業の枠を使用して実施(現在は休日・放課後に実施) 4. 低年齢層(1～2年生)の親子参加など</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる面、あらゆる可能性を考え、教室の実施を考える。 ・子どもだけではなく、親子で参加する機会も検討。 ・今の子ども達に体験活動機会が不足～厳しさとは何か。 ・担当者と指導者の学習力を高める必要がある～メニューの視点を豊かに持つことが必要。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・課題にある通りだと思います。少数でも実施していく中で改善を試みるしかないと思います。 			

事業名	青少年健全育成のつどい			
	<p>本町の子どもをとりまく諸問題や青少年健全育成推進の効果的なあり方について協議し、今後の方策を考える。</p> <p>※ 町PTA連合会研修会と共催 (H20、21 学校支援ボランティア養成講座を兼ねる)</p>			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	76	100	80	80
評価ランク	A	A	A	A
教育委員会 総合評価	<p>青少年育成の識者を招いての講演会を実施。多くのPTA関係者・青少年育成者に問題提起・解決の糸口を提供することができた。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAと青少年育成者が一堂に会して講演会を実施することで、問題提起はできているが、互いにコミュニケーションを交わす場づくりが必要である。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・その通りと思います。 			

事業名	ボランティアの養成			
	<p>中学生・高校生に社会参加の機会を与え、ボランティア意識の啓発を図り資質を高めることを目的に開催する。</p> <p>対象 中学生・高校生</p> <p>内容 各社会教育事業ごとに募集し、ボランティアの芽を育てる。</p> <p>平成18年度：ワークショップ、子どもチャレンジ教室</p> <p>平成20年度：研修、子どもチャレンジ教室</p>			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	5		1	
評価ランク	B	C	C	C
教育委員会	<p>中高生に対してのボランティア意識の啓発が不足している。今後は中学校、高校と協議するとともに、協力を得ながら本事業を推進していくことが必要である。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的なボランティア養成を考える。 ・計画指導できる指導者の養成も必要。 ・学校との連携を通じてボランティア養成の必要性について考える。 			
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的なボランティア養成を考える。 ・計画指導できる指導者の養成も必要。 ・学校との連携を通じてボランティア養成の必要性について考える。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・できれば、自らが「子どもチャレンジ教室」を体験し、それをもとに中高生になった時、ボランティアで参加しようと思うようになることが望ましいと思います。そういった良循環にしたいですね。 			

事業名	遠別町成人式			
	<p>新成人の門出を祝うとともに、大人としての自覚を持つこと、責任ある行動を促し励ますことを目的とする。</p> <p>日時 成人の日の前日 13:00 リハーサル 14:00 式典</p> <p>会場 マナピィ・21多目的ホール</p> <p>対象 当該年度に20歳に到達する者。(町外居住者の参加も認める。)</p> <p>内容 ・記念式典 ・記念写真撮影 ・アトラクション</p> <p>※ 実行委員会を組織し、しおり作成や運営協力、祝賀会の準備などを行う。</p>			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
出席人数	32	31	33	31
評価ランク	A	A	A	A
教育委員会	<p>短期間の実行委員会を組織し実施したことは、十分な成果があったと思われる。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会で実施する範囲や、出来ることへの可能性について十分か再検討の必要はないか。 			
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会で実施する範囲や、出来ることへの可能性について十分か再検討の必要はないか。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・その通りと思います。 			

事業名	生涯学習セミナー			
	町民の生涯学習に対する理解と関心を高めるとともに、学習活動を実践するリーダー養成を目的に開催する。 対象 一般町民、教育関係者、行政関係者 内容 平成18年度：「脳の老化とボケの予防」「薬の飲み方」「いじめを考える」 平成19年度：「カナダの生活と文化」 平成20年度：「みんなでしりたい特別支援教育」 平成21年度：「町民の学びの環境をつくるこれからの教育の在り方」			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	160	39	55	37
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	一般町民の参加は少なかったものの、生涯学習に対する理解は得られたものと思われる。 (課題) ・生涯学習の理念に関わる学習機会をつくる場づくりは実施しているが、学び合うことへの意見交換としては十分ではない。			
策定委員 評価	・町民大学の講座や、町P連の講演会との内容や講師の関連等にも配慮する必要があるかもしれません。			

事業名	生涯学習通信の発行			
	生涯学習に関する情報を収集し、学習活動に必要な情報を広く町民に提供することをねらいとする。 発行時期 5月、8月、10月、1月（年4回） 掲載内容 ・事業紹介 ・事業展開の様子 発行手段 町広報誌への折込み、マナピィ・21、スポーツセンターでの掲示等			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
発行回数	6	4	4	4
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	生涯学習新聞を作成して、多くの町民に生涯学習の情報を提供することができているが、今後は、社会教育関係団体や生涯学習を実践している町民の活動・活躍を紹介することにより、まち全体が生涯学習に取り組めるような情報を発信することが重要である。 (課題) ・教育委員会の取り組みや事業等の紹介機会として役割は果たしているが、問題提起するコラムの必要、共に考える場としての通信の幅を広げることを検討。 ・町民参加の工夫が必要。			
策定委員 評価	・その通りと思います。			

事業名	社会教育活動奨励事業（町民大学）			
	生涯学習社会に対応した学習活動を展開していくため、「町民による町民のための学習の場」として、町民の手による学習組織を運営する。 講師 平成18年度：ヒロ中田、東家夢助、養老孟司 平成19年度：石川牧子、堀井学、逢坂誠二 平成20年度：喜瀬ひろし、春日三球、広瀬哲朗 平成21年度：いかりや浩一、藤田弓子 町補助金 800,000円（町民大学運営委員会）			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
学生人数	113	97	99	95
参加人数 （累計）	161	169	136	95
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	各講座とも効果的に事業展開できていると思われる。 （課題） ・学生数を増やすことの必要性はあるが、年間3回ほどの講座数で町民の意識の優劣を判断することに限界がある。学びの機会を町民教室等と連動させることも必要ではないか。			
策定委員 評価	・その通りと思います。			

事業名	学社融合事業の推進			
	学校教育と社会教育（地域）が一体となった学習活動を展開することによって、子どもたちが自ら学び自ら考え主体的に判断し行動するなど「生きる力」の育成を図る。 ・遠別の教育を考える会議（年2回） ・学校の授業への地域の講師の派遣			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
評価ランク	A	A	A	A
教育委員会 総合評価	学校と地域が一体となり、地域の教育資源を活かした学習活動が展開されている。 一般教科や総合的な学習の時間において、外部講師を招聘することにより大きな学習効果を高め、講師自身も内容について創意工夫を凝らしている。 （課題） ・学社融合事業について、学校側と講師、行政が達成度合（子どもの学びへの効果）を高めていく手立てを検討する必要がある。			
策定委員 評価	・その通りと思います。			

事業名	ゆかりの地との交流事業			
	<p>本町ゆかりの地である福井県越前市の児童と交流を深め、友情の輪を広げるとともに、将来に向かって両地域の友好と発展に寄与することをねらいとする。</p> <p>日時 7月末（3泊4日） 1年ごとに交互訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越前市へ訪問団を派遣（学校交流、創作活動、市内見学、県内見学） ・越前市訪問団受け入れ（学校交流、創作活動、町内見学、道北見学） <p>※ 補助金 遠別町ゆかりの地との交流事業運営補助金</p> <p>訪問団派遣 1,000,000円 訪問団受入 700,000円 (事業主体：国内交流を進める会)</p>			
	平成18年度 (派遣)	平成19年度 (受入)	平成20年度 (派遣)	平成21年度 (受入)
参加人数	11 (引率5)	16 (引率5)	11 (引率4)	11 (引率5)
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	<p>本町ゆかりの地である福井県越前市の児童と遠別小学校児童が交流をすることで、両地域の友好が深まり健全育成に資することができた。</p> <p>また、児童同士は継続した交流ができています。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の仕組み効果が薄れてきている面がある。(ホームステイ) ・相互交流の未来を見据えて、あり方と方向性を考えることが重要。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・よくわかりません。 			

事業名	花いっぱい運動			
	<p>町内全域にわたりプランターを設置し、町民の環境美化運動への関心を高め、明るくきれいなまちづくりに寄与する。</p> <p>日時 6月～10月 プランター設置 6月第1日曜日</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内全域にプランターの設置及び撤収 ・国道歩道プランターへの花苗植え ・花苗の管理 			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	100	100	100	150
参加団体数	10	10	10	11
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	<p>各町内会に花苗プランターを設置することにより、町内の環境美化による明るいまちづくり推進に寄与することができた。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花づくりと、環境美化と、心を育む取り組みの可能性の有り方として、町ぐるみの運動として推進すべく継続することの必要性について検討。(参加者は増加傾向にある。) 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・その通りと思います。 			

事業名	社会教育関係団体の育成・支援			
	社会教育関係団体の自主活動を促進し、団体活動が本来の目的に即して展開できるよう育成・支援する。 補助金交付団体 <ul style="list-style-type: none"> ・町民大学運営委員会 ・遠別町青少年育成委員連絡協議会 ・遠別町PTA連合会 ・遠別町女性団体連絡協議会 ・遠別町花いっぱい実践協議会 ・国内交流を進める会（遠別町ゆかりの地との交流事業） 			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	<p>これまで教育委員会が各団体の事務局を担ってきたが、今後は、自主・自立を促し、各団体が特徴ある活動ができるよう支援していくことが重要である。</p> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主自立の方向性への展開に向かっているが、団体の成長と合わせて、担当者の意識についても団体の成長のあるべき姿を考え支援する必要がある。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・その通りと思います。 			

事業名	社会教育推進計画の作成			
	生涯学習によるまちづくりを進めるため、「学びから広がる“みんなの輪”」をテーマにニーズに応じた魅力ある社会教育を計画的に推進するため、単年度の推進計画を策定する。 計画内容 <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育目標 ・社会教育事業計画 ・社会教育カレンダー ・各種事業概要 ・前年度社会教育施設利用状況 ・各種委員一覧 			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	<p>計画段階で社会教育委員・体育指導委員に意見を求めていけるよう見直しが必要であると思われる。</p> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育委員の意見が反映できる場づくりのために、会議の中にどう活かしていくか。 ・十分に取り組みが見えるような工夫を考えるべき。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・その通りと思います。社会教育委員の自覚も必要だと思います。 			

事業名	社会教育委員研修			
	社会教育委員としての資質向上を図ることを目的に、各種研修活動を実施する。 内容 平成18年度：講義「社会教育委員の役割」 平成19年度：講義「社会教育委員に求められていること」 平成20年度：講義「社会教育委員に期待する」 平成21年度：			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	9	8	7	
評価ランク	C	C	C	未
教育委員会 総合評価	留萌教育局の職員を講師に迎えて実施されたが、まだ不十分と思われる。 (課題) ・社会教育委員の研修における意識啓発の必要性が求められることを伝える努力と創意工夫が必要。			
策定委員 評価				

事業名	リーダーバンクの登録・活用			
	多様化する学習ニーズに対応するため、専門的な知識を持った人材を発掘・登録し、各種事業に積極的に活用することにより、地域の教育力の向上を図る。 内容 ・現在の登録の見直し ・登録者の活用機会の拡充 ・新しい登録者の発掘（年間を通して広く人材を求める。）			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
評価ランク	C	C	C	C
教育委員会 総合評価	学社融合事業において、各学校に登録状況は提供できているが、町民に対し情報を発信することができていない。 また、現在の登録状況を更新し、新しい情報にしなければならない。 (課題) ・町民からの掘り起し。 ・学んだことを活かすことの大事さや参画することへの喜びをどう具体的に伝えるか。			
策定委員 評価	・とにかく活用していかないと充実していかないのではと思います。			

事業名	社会教育施設の開放			
	<p>町民の学習活動の拠点として、多くの町民に利用されるよう施設の機能を生かし、利用の立場に立った施設するため、効果的な管理運営を図る。</p> <p>施設 ・生涯学習センターマナピィ・21 9:00～22:00（月曜日夜間は休館） ・生涯学習センター図書室 10:00～18:00（月・祝・日曜日は休館） ※第1・第3・第5日曜は日曜開放を実施 ・郷土資料館：申請あるごとに開館する。</p>			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
利用人数	（施設ごとに作成済み）			
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	各施設が有効に活用されているのか検証する必要がある。 （課題） ・施設の有効利用と活性化のために、行政からの発信が第1に重要。（具体的な手立て）			
策定委員 評価	・その通りと思います。			

事業名	ホームページの更新			
	学びによるまちづくりをすすめるため、常にホームページを更新し、社会教育に関するあらゆる情報を町民に提供する。			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	常に新しい情報を発信するよう努めているが、内容について広く意見を求めていきたい。 （課題） ・閲覧者の声、意見をひろいホームページづくりに活かす。 ・町民の参加場面の演出の工夫。			
策定委員 評価	・その通りと思います。			

事業名	子どものつどい			
	本町に住む子どもたちの健やかな成長を願い、子ども会活動の充実と活性化を図り、年齢を超えてみんなで遊ぶ楽しさを知ってもらう。 内容 平成18年度：子ども音楽あそび 平成19年度：バルーンアートで遊ぼう 平成20年度：切り紙教室 平成21年度：ヒップホップ教室 ※ 遠別町青少年育成委員連絡協議会			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	60	82	50	50
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	育連協を中心に推進しているが、近年は鑑賞型・体験型の事業メニューが多い。 (課題) ・中高生の社会参加機会として、中高生をボランティアとして活用し、中高生が中心となった事業展開の検討。			
策定委員 評価	・ボランティアの養成と同じように、自分達が参加・体験して、中高生になった時にボランティアの実践として参加、取組む形にしていければよいと思います。			

◎文化活動

事業名	各種作品展			
	マナピィ・21の施設を有効活用するため、各団体・サークル等の学習発表の場として、各種作品を展示し、文化活動の推進に寄与する。 内容 ・小中学生夏休み作品展 ・小中学生冬休み作品展 ・二科会写真展 ・郷土資料特別展 ・管内巡回陶芸展 その他必要に応じた展示活動を積極的に実施する。 (通年) 遠別産出化石展、各団体サークル常設展			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
事業数	4	5	4	4
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	マナピィのロビーを使用しての各種展示会を実施することにより、多くの町民に鑑賞機会を提供することができた。今後は、各文化系団体へ働きかけをし、ロビー活動を活発にしていきたい。 (課題) ・郷土資料館特別展が実施されていない。 ・自主企画(行政)、町民参加によるロビー活動など施設がいきいき息づく取り組みを。			
策定委員 評価	・B			

事業名	お話しの部屋			
	幼児期からの読書への習慣付けと親子の読書活動を奨励し、図書室活動の充実を図る。 対象 幼児・小学校低学年とその保護者 日時 お話しの部屋（マナピィ・21）原則：毎月第2土曜日 13:30～14:30 リトルキッズおはなし会（きらり）原則：毎月第3水曜日 10:30～11:30 内容 絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び、人形劇 など			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	383	359	400	558
（お話）	(246)	(193)	(299)	(214)
（リトル）	(137)	(166)	(101)	(344)
平均人数	16.0	15.0	16.7	24.3
（お話）	(20.5)	(16.1)	(24.9)	(17.8)
（リトル）	(11.4)	(13.8)	(8.4)	(31.3)
評価ランク	B	B	B	A
教育委員会 総合評価	子育て支援の観点から21年度より、「リトルキッズおはなし会」を幼児センターで実施している。とても効果的であると考えられ、さらには、参加者を小学低学年までを対象としている「お話の部屋」につなげていけるよう事業展開の継続性を図らなければならない。 （課題） ・年次的に参加者が増えるなど、効果が得られているが、本に親しむ楽しみ、読書普及を通じて、読書人を増やせるような事業展開を。			
策定委員 評価	・学校での読み聞かせ、ありがとうございます。 ・B			

事業名	図書室だよりの発行			
	読書活動の推進を図るため、町民に広く読書に関するさまざまな情報を提供する。 （年間12回発行予定） 内容 ・新刊図書案内 ・読書普及啓発ちらしの発行 ・お話しの部屋周知 ・人気のある本の紹介 ・図書室PR など			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	これまでは、事業周知中心に発行していたが、読書の魅力や図書の紹介を積極的に周知する必要がある。 （課題） ・図書室の利用を高めるため、利用者自身にも成果が見える工夫や、意識を高める工夫が必要。			
策定委員 評価	・B			

事業名	読書感想文コンクール			
児童生徒への読書活動の奨励と読書習慣の定着を図るとともに、読書を通して少年期における豊かな心を育てることを目的とする。 日時 作品募集 7月 審査 9月 表彰式 11月 作品集発行 1月 クラス 小学1年、小学2年、小学3・4年、小学5・6年、中学生、高校生				
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	53	55	59	58
(小学校)	(34)	(34)	(35)	(35)
(中学校)	(16)	(18)	(18)	(18)
(高校)	(3)	(3)	(6)	(5)
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	表彰式・文集発行などを通して、児童生徒に読書について関心を持ってもらうことができているが、今後は図書室が各学校と連携し、児童生徒100%の参加を目指したい。			
策定委員 評価	・ B			

事業名	小中学生書道美術展			
町民文化祭展示部門を利用して、児童生徒の文化活動の発表機会の場を提供する。 日時 町民文化祭展示部門 内容 書道展・美術展（学年別に表彰する。）				
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	179	246	173	197
(小学校)	(149)	(182)	(152)	(137)
(中学校)	(30)	(64)	(21)	(60)
評価ランク	A	A	A	A
教育委員会 総合評価	町民文化祭にて展示し、多くの町民に鑑賞してもらっている。 (課題) ・学校との連携を強く持ち、入賞者についてはロビー展として文化祭期間にとどまらない展示の工夫。			
策定委員 評価	・ロビーに展示してあることの情報の周知、学校を通してでも結構です。 ・ A			

事業名	児童生徒芸術文化招聘事業			
	児童生徒に優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供し、豊かな感性を育てることをねらいとする。 対象 小学生、中学生、高校生 内容 平成18年度：劇団さっぽろ「はやてに走れあまんじゃく」 平成19年度：北海学園大学「そんごくう」 ひのき屋「旅するたいこ」 平成20年度：アンデスのフォルクローレコンサート 平成21年度：パフ・ファミリーコンサート			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	273	232	300	320
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	小学校～高校までを対象として年1回の実施のため、招聘作品が低学年向けの劇公演や、音楽公演になってしまっている。 各年齢層に合わせた効果的な事業を実施するには、改善が必要である。 (課題) ・道補助金や様々な事業との連携など鑑賞機会の場を増やせるような取り組みを進める。			
策定委員 評価	・小～高までに合う演目を考えるのは御苦労さまです。ただ、時にはあまりお金のかからない1人芝居などを、小の体育館でやったりしていただくと助かります。 ・A。22年度、たまたま見学する機会に恵まれました。短い練習時間に1年生がしっかり踊りをマスターしているのにビックリ。今後も継続してください。			

事業名	新春！書き初め！			
	日本の伝統文化である書き初めを実施し、書道の普及を図る。 会場：マナピィ・21 対象：小学3年～6年 内容 ・書き初め指導 ・学年別に表彰する ・作品はロビーに展示 協力 遠別小学校、遠別中学校、遠別町文化協会			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数		19	22	20
評価ランク		B	B	B
教育委員会 総合評価	事業廃止していた「書き初め大会」の名称を変え復活させた事業である。参加者する児童のほとんどが、書道教室に通っているため、それ以外の掘り起こしを図っていききたい。 (課題) ・学社融合事業で実施している小学校での書写の成果を発揮する場としての位置づけを図るには、今後も小学校との連携・協力が必要である。			
策定委員 評価	・講師の先生に感謝しています。 ・B			

事業名	文化活動（生涯学習）情報提供			
	<p>学習活動や文化活動に関する情報を収集するとともに、町民のニーズに応じたさまざまな学習情報を提供する。</p> <p>提供手段</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町広報誌や生涯学習情報誌を利用した情報提供 ・教育委員会ホームページを利用した情報提供 ・直接窓口で相談に応じる情報提供 ・マナピィ・21ロビー等を利用した掲示による情報提供 			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
発行回数	(社会教育活動：生涯学習通信の発行)			
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	(社会教育活動：生涯学習通信の発行)			
策定委員 評価	・ B			

事業名	文化活動奨励事業（芸術鑑賞事業）			
	<p>優れた芸術文化にふれる機会を町民に提供することにより、文化活動への関心を高め、うるおいのある明るい町づくりに寄与することを目的とする。</p> <p>内容</p> <p>平成18年度：3事業 平成19年度：2事業 平成20年度：3事業 平成21年度：2事業</p> <p>町補助金 1,700,000円（遠別町芸術鑑賞事業運営委員会）</p>			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	696	352	653	273
①	(248)	(176)	(466)	(203)
②	(388)	—	(105)	—
③	(60)	(176)	(82)	(70)
評価ランク	A	B	A	B
教育委員会 総合評価	<p>北海道文化財団などからの助成金を組み合わせることで、様々なジャンルの公演を招聘することができ、来場者から好評を得ている。</p> <p>課題は、実施団体の委員数の減少であり、新たな人材の掘り起しが重要である。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい補助事業を確保するためにネットワークを有効活用する。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも楽しみにしています。 ・ A 			

事業名	文化活動奨励事業（町民文化祭）			
	町民に広く文化活動発表の場を提供し、文化創造意欲を高めるとともに、地域に根ざした文化活動の推進を図る。 日時 芸能部門 10月最終日曜 展示部門 11月第1土曜、日曜 会場 マナピィ・21 内容 芸能部門：コーラス、詩吟、バンド演奏、演劇、和太鼓ほか 展示部門：書道、陶芸、絵画、写真、俳句、手芸、生け花ほか			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加団体 ・個人	35	33	39	32
(展示)	(27)	(25)	(30)	(26)
(芸能)	(8)	(8)	(9)	(6)
評価ランク	A	A	A	A
教育委員会 総合評価	町民の文化活動の発表の場であり、年度毎に参加数の増減はあるが、生涯学習の観点から今後も継続していくべき事業である。 (課題) ・町民参加機会として有意義ではあるが、団体参加が減ってきている中で、個人参加を促進する必要がある。			
策定委員 評価	・芸能部門の観客が少ないのが、さびしい気がします。 ・A。広く一般にも出演作品を呼びかけ、間口をひろげたことが良い結果を生んでいると思う。			

事業名	文化団体の育成・支援			
	文化団体の自主活動を促進し、団体の本来の目的に即した魅力ある活動ができるよう育成・支援する。 補助金交付団体 ・遠別町文化協会 ・遠別町芸術鑑賞事業運営委員会 ・遠別町郷土芸能育成保存会			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
評価ランク	A	A	A	A
教育委員会 総合評価	これまで教育委員会が各団体の事務局を担ってきたが、今後は、自主・自立を促し、各団体が特徴ある活動ができるよう支援していくことが重要である。			
策定委員 評価	・A			

事業名	郷土資料の収集・保存・展示			
	郷土資料館の資料の充実と郷土の歴史・文化とふれあう機会の拡充をめざし、調査研究及び資料の収集・保存に努めるとともに、資料の展示活動を実施する。			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
評価ランク	C	C	C	C
教育委員会 総合評価	<p>通常開館をしていないため、郷土資料館としての機能・役割が停滞している。</p> <p>テーマ別展示活動を、町民が足を運びやすいマナピィ・21等で開催し、郷土資料館を町民にPRする必要性もある。</p> <p>今後、郷土資料館をどのように位置付けていくのか、改修・移転・廃止などを含めて検討しなければならない。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料収集と活用について十分でない～特別展などを通じて掘り起こしを。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育の関連からは、子供が足を運びやすい環境をお願いしたい。 B。評価が低いのは大変残念です。 			

◎スポーツ活動

事業名	体育指導委員会議							
	各種体育行事の企画実施に参画協力し、体育レクリエーションの普及啓発をするとともに生涯スポーツの振興を目指すため、各施設の有効利用を図り指導・助言を行う。							
	<p>主な議題 第1回(4月)・スポーツ事業推進計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種研修会参加及び各事業の役割分担について <p>第2回(10月)・スポーツ事業経過報告及び今後の事業について</p> <p>第3回(1月)・今後のスポーツ事業について</p> <p>第4回(3月)・今年度のスポーツ事業の反省及び評価について</p>							
	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
参加人数	第1回	9	第1回	7	第1回	9	第1回	7
	第2回	7	第2回	7	第2回	4	第2回	8
	第3回	7	第3回	7	第3回	7	第3回	7
	第4回	6	第4回	7	第4回	5	第4回	5
評価ランク	A		A		A		A	
教育委員会 総合評価	<p>体育指導委員は各種体育事業の実施に協力し、ニュースポーツやウォーキングコース設定・図面作成など企画から指導まで幅広く活動している。また、年度末にはスポーツ事業の反省等を検証し次年度につなげる助言をしている。しかし、近年会議等の参加率が減少傾向にあるので今後は開催時期等を打ち合わせながら開催する予定である。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加機会などを通じて意識を高める。 							
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> 会議の時期は、話し合いして決めた方がよい。 							

事業名	子どもバレーボール大会			
バレーボールを通じて子どもたちの交流の場を提供するとともに、スポーツに親しむ機会の充実を図る。				
内容 ・町内会の中学生で構成するチーム ・一週間前から練習期間を設ける。				
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	95	71	57	95
チーム数	8	6	6	6
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の分析 年々参加者数が減少傾向にある。H21年度の事業開催前に中学生と育成部長にアンケート調査を実施し、育成部長会議でも今後の事業の在り方について協議を行ったところである。中学生のアンケート結果では55%の生徒が今後もこのままで実施してほしいという要望と40%以上の生徒が種目の変更や不参加という回答結果が得られた。また学年によっても、意欲的に参加する学年と積極的に参加しない学年が見られる。育成部長会議においても、継続するのは良いが種目の変更も検討が必要という意見も出された。本事業のより良い方向性を探るためにも、アンケート調査等で中学生の思いや考え方を把握しなければならない。 ・今後の事業展開 ①参加者数が少なくなりながらも、このかたちを維持し実施する？ ②種目を変更して参加者の拡大等をねらい事業展開をするか？ ③子どもの集いに位置づけ連携を図りながら事業展開をするか？ ④事業の廃止とするか？ (課題) ・中学生の主体性は大事だが、行政としての見解、子ども達にスポーツ体験機会を通じて、何を体得させたいのか。 			
策定委員 評価	・育成部や生徒と話し合い、種目の変更を考えたらどうか？			

事業名	遠別町教育長杯管内小学生バレーボール大会			
バレーボールを通じて、管内の小学生の交流を深めるとともに、技術の向上を図る。 (道新カップ小学生バレーボール大会留萌地区予選と同時に行う。)				
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
チーム数	26	24	27	23
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の分析 本町からトロフィー2本と賞状4枚を毎年用意している。道新カップの留萌地区予選大会と兼ねて開催し、主に6年生は道新カップ、5年生以下は教育長杯と分けている。大会運営は留萌地区小学生バレーボール連盟と遠別町のバレーボール少年団で行っている。 ・今後の事業展開 教育長杯の冠を外すと留萌管内で持ち回りの事業になることが予想される。過去に遠別町で開催してほしいという要望を出した手前、冠を外すのは難しいと思う。 (課題) ・継続事業としての必要性和、管内事業の見直しに合わせて検討。 			
策定委員 評価	・B			

事業名	町民ミニバレーボール大会			
	誰でも気軽にできる生涯スポーツとしてのミニバレーボールの普及をねらいに、町内会対抗の大会を開催するとともに、体力づくりの場を提供する。			
	内容 ・町内会の大人で構成するチームで年齢により、男女別クラス分けを行う。			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	122	153	152	136
チーム数	18	21	18	15
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	<p>本事業の狙いは生涯スポーツの一つとして、誰でも気軽に参加できるミニバレーボールを普及させる目的は達成できているが、町内間で高齢化が進み、男子40歳以上と女子35歳以上の部が激減していることから若者の大会となっているので、今後についてはニュースポーツも視野に入れながら検討が必要である。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ体験機会が重要なので、種目にこだわらない参加機会の確保の検討。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・見ていないので分かりません。 ・種目を考える。人を集めるのが大変です。 			

事業名	子どもスキーの日			
	冬を楽しむスポーツとして子どもたちへのスキーの普及とスキー技術の向上をねらいに、町内の子どもたちが気軽に参加できるイベントを開催する。			
	内容 ・遠別町に居住する幼児から中学生まで対象。			
	・幼児及び小学低学年は滑降、小学中学年及び中学生は大回転とする。			
	・小学生は校内スキー大会を兼ねているため、学社融合事業となる。			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	182	197	178	158
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の分析 <p>学社融合事業として7回開催し、学校、社会教育、地域の力を合わせて大会運営をしており、参加者数も飛躍的に増加した。しかし、7回実施してきた中で慣れが生じてきており、大会のマナー化と学社融合事業のメリット、デメリットを見いだせないでいるのが現状である。学校のメリットは何か？社会教育のメリットは何か？大会の目的は？大会そのものの必要性は？等を学校、社会教育、地域の3者間で共通理解を図り、整理していかなければならないと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の事業展開 <ol style="list-style-type: none"> 1 大会の目的を明確にする。 2 学校、社会教育、地域のメリット、デメリットを探る 3 学社融合事業の必要性（校内スキー大会）と兼ねているが今後？ 4 競技性が強く、スキーが苦手な子が楽しめる工夫 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業が何を目的に開催しているか。 ・スキーの楽しみ、技術の向上はどこで得られるべきか。 ・学社融合事業としての効果は得られているのか。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・B。上記の（課題）に同じ。 ・もっと楽しめるスキー大会にしてほしい。種目を増やしたらどうか。小学校、中学校の持ち回りではどうか。 			

事業名	スポーツ活動奨励事業（さわやかスポーツ祭り）			
<p>「さわやかスポーツの町」宣言にふさわしいスポーツイベントとして、町民の交流と体力づくりをねらいに開催する。</p> <p>日時 7月 午前9時 開会式</p> <p>会場 スポーツ公園運動広場</p> <p>内容 ・町内会に在住する町民。 ・全種目町内会対抗とする。 ・種目により年齢制限を設ける。 ・種目は実行委員会で決定する。</p> <p>町補助金 1,450,000（さわやかスポーツ祭り実行委員会）</p>				
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	560 (9チーム)	478 (8チーム)	596 (7チーム)	344 (7チーム)
評価ランク	A	A	A	A
教育委員会 総合評価	<p>本事業は今年で18回を迎え、町民の交流と体力づくりに寄与している。しかし、近年少子化や高齢化が進み体育部では選手集めに苦勞し参加チームが7地区に固定化しつつある。また、駐在員会議でも今後の開催に向けて協議が進められており、20回をめぐり中止との意見もあることから、今後の大会は検討を要する。</p> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ祭りのイベントと町内交流の成果が得られているが、全町的な継続については総合的な判断が必要。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・A。良いと思います。 ・子供や高齢者の方でも、気軽に参加できる種目を増やしてみたら良いかと思います。 ・種目や年齢制限を考えたらいいのではないか。体育部も人集めにとても苦勞しています。 			

事業名	スポーツ活動奨励事業（エンベツふれあいマラソン大会）			
<p>町内だけでなく、町外からも広くマラソン愛好者の参加者を募り、マラソンを通じて交流を深め、マラソンの普及と体力づくりを目的に開催する。</p> <p>日時：10月第1日曜 会場：町内特設コース</p> <p>内容 参加対象：マラソン愛好者 遠別町市街地を走るコース（12種目）</p> <p>主催 エンベツふれあいマラソン大会実行委員会</p>				
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	434	346	335	320
評価ランク	A	A	A	A
教育委員会 総合評価	<p>本事業は、小学校と高校の校内マラソン大会を兼ねた学社融合事業であり、町内外からのマラソン愛好者が多数参加する大会で留萌管内でも参加者が多い人気のある事業です。しかし、参加人数が多くなるため問題点も発生しているため、実行委員会では反省を踏まえてより良い大会運営にする工夫を検討する必要がある。</p> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携と効果的な運営の検討。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・A。町外からも参加あり良い。会議の内容及び回数精査を！（まとめて1回でも可。） ・小学校と高校との持ち回りでやってみようか。 			

事業名	ちびっ子水泳教室			
水泳技能の向上と体力づくりをねらいに、小学1・2年生を対象とした教室を開催する。 (2クラスに分けた水泳指導、指導者2名・監視1名)				
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
開催日数	8	4	8	7
延べ人数	165	68	162	158
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の分析 小学1・2年生を対象とした教室で参加者数は学年の6割に達し、参加者と保護者からのニーズが高い事業であるが、そのニーズに応えられるだけの指導者を確保できないのが現状である。H20年度から海洋クラブを立ち上げることができ、(清水会長、小・中学校の教員、スポーツセンター職員、水泳愛好者で構成した指導者会)少人数グループで指導にあたることができたが、海洋クラブの反省会では、さらに細分化したグループで指導していきたいという反省点があげられたので、今後も指導者の確保に努めていきたい。 ・今後の事業展開 <ol style="list-style-type: none"> 1 指導者の確保 2 参加者個人の目標を達成させる事業展開をしていく必要がある。 3 指導者がねらいとする到達目標を指導者間で共通理解する。 (課題) ・将来を見据えた計画的な指導者養成。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ B 			

事業名	ジュニアスイミングスクール			
水泳技能の向上と体力づくりをねらいに、小学3学年から6学年までを対象とした教室を開催する。 (2クラスに分けた水泳指導、指導者2名・監視1名)				
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
開催日数	8	10	10	7
延べ人数	211	189	201	193
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・小学3～6年生を対象とした事業で、毎年40名前後の参加者数で子どもや・保護者からのニーズが高い事業である。この事業も海洋クラブと連携を図りながら教育委員会と海洋クラブの共催というかたちで教室を運営している。ちびっ子水泳教室も同様であるが、小・中学校の先生が仕事の都合で来られない時が多々あるので、完全に班別で指導にあたることができていないのが現状である。 ・今後の事業展開 <ol style="list-style-type: none"> 1 指導者の確保 2 海洋性レクリエーションの分野に触れる機会の提供 3 WSJ(水の事故ゼロ運動)の事業展開と連動したかたちの安全教室の実施。 (課題) ・将来を見据えた計画的な指導者養成。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ B 			

事業名	ジュニアスキー学校			
<p>シーズンを通した教室を開設することにより、子どもたちがスキーへの関心を高め、冬を楽しむスポーツを推進する。</p> <p>内容 ・指導対象は幼児から小学生まで ・技能段階に応じた判別指導</p>				
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
開催日数	6	8	8	6
延べ人数	165	183	203	161
評価ランク	B	B	B	B
教育委員会 総合評価	<p>・現状の分析 幼児～6年生を対象として、幼児～2年生、3年生～6年生までに分け各クラス4日間ずつ教室を実施することとし、講師はスキークラブに依頼している。参加者数は毎年60名前後で子どもと保護者からニーズが高い事業である。特に幼児～2年生の部に人気集中し、3～6年生までの部については欠席者が目立つ傾向にある。ある程度滑れるようになると「それ以上を望まない」傾向にあるのではないか？</p> <p>・今後の事業展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個人目標が達成できる事業展開 2 スキークラブと連携し事業の到達目標の共通理解を図る。 			
策定委員 評価				

事業名	さわやかスポーツクラブ			
<p>生活の中で積極的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しむことが出来るように、さまざまなスポーツ体験を目的とした教室を開催する。</p> <p>内容 ヨガ、屋内外PG、アクアビクス、ウォーキング、屋内GB、水中運動、スポレック、大人の水泳教室 など</p>				
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
開催日数	10	15	16	21
延べ人数	178	215	221	271
評価ランク	A	A	A	A
教育委員会 総合評価	<p>当クラブは、町民に様々なスポーツを楽しむための通年型の体験教室であり、健康志向やニュースポーツ等を取り入れ人気のある事業です。しかし、近年は体験教室の参加人数が減少傾向にあるため、参加しやすい環境を整え町民の健康維持に寄与する予定である。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体主導と行政課題の整理を行い、テーマを持つ。 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・A。大人の水泳教室の中身も少し変えていくと良い。(エアロビ、ウォーキングなど。) ・今年度は、ヨガ、大人の水泳教室、フロアカーリングと体験講座が続いています。最初からずっと参加してくれている人もいます。参加人数は少ないかもしれませんが、満足してくれる人が1人でもいたら、それでOKなのかなとも思います。 ・誰でも参加できるように楽しめる雰囲気作りや、たくさんアピールしたらどうか。ニュースポーツをもっと増やしたらどうか。 			

事業名	B & G海洋体験セミナー・体験クルーズ			
	団員を派遣し、体験航海と寄港地での海洋性スポーツの研修、さらに規律正しい団体生活により人間性豊かなリーダーを養成する。 内容 海洋体験セミナー（沖縄 8月上旬） ・自然体験活動 ・海洋性レクリエーション活動 体験クルーズ（小笠原 3月下旬） ・洋上研修 ・寄港地活動			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数	3	4	3	2
(セミナー)	2	2	2	2
(クルーズ)	1	2	1	0
評価ランク	A	A	A	A
教育委員会 総合評価	本事業は、B & G財団の主催事業であります。児童生徒にいろいろな海洋体験や規律正しい団体生活を体験し、全国各地から参加者が集まり、事業終了後の交流も行っている大変人気のある事業です。しかし、近年不景気等により親の負担もあることから参加できないこともあるため、今後はPR活動に力を入れ子どもたちにいろいろな体験活動での成長を期待するために参加の募集に努める予定である。			
策定委員 評価				

事業名	小学生水泳大会			
	水泳技能の向上と体力づくりをねらいに、小学生を対象とした大会を開催する。 内容 ・参加対象 遠別町内在住の小学生 ・25m、50m、100m自由形 学年制限なし男女リレー ・参加者全員によるレクリエーション			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
参加人数		17	26	33
評価ランク		B	B	B
教育委員会 総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の分析 小学1～6年生を対象に、13m自由形、25m自由形、50m自由形の競技種目とレクリエーションをプログラムの中に盛り込み、水泳が得意な子ども、苦手な子どもにも配慮したかたちで海洋クラブと共催で大会を開催している。1・2年、3・4年、5・6年の2学年ずつ種目を分けて実施しているが、参加者数によっては学年別で実施することも検討している。海洋クラブの反省会で「各種の水泳教室に参加した子どもの参加が少ない。」という意見があるので、一人でも多くの参加者を増やしていくように声かけをしていきたい。 ・今後の事業展開 1 学年別の競技にするためには、参加者を増やす必要がある。 2 競技性とレクのバランスがとれた事業展開。 			
策定委員 評価	・B。大会の組み合わせを、スピードに合わせて組むともっと盛り上がる。			

事業名	各体育施設の開放			
	町民が生涯にわたりスポーツに親しめる環境を整備し、各施設の利用促進を図る。			
日時	4月～3月			
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツセンター 通年（祝日の月曜日は休館日） ・スポーツ公園 5月～10月 野球場、運動広場、テニスコート、ゲートボール場（野球照明は6月～9月まで） ・幸和スキー場 12月～3月（月、水、金、土曜日は夜間開放） ・海洋センター 6月～9月（月曜日の夜間は閉館） ・すぱーく遠別 通年（祝日の月曜日は休館日） 			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
利用人数	（施設ごとに作成済み）			
評価ランク	A	A	A	A
教育委員会 総合評価	<p>各体育施設は、老朽化が目立つようになり計画的な整備を実施している。各施設の利用人数は少子化・高齢化の影響により減少傾向にある。そのため、利用促進を図る目的で平成20年度よりスポーツセンターとすぱーく遠別は月曜休館を開放している。今後についてもより効率的な改修や修繕を実施して町民の利用促進を図る。</p> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者にとって魅力ある施設運営 			
策定委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・A。すぱーく、フットサルで助かってます。 			

評価基準

- A：効果があった
- B：まあまあ効果があった
- C：まだ取り組みが不十分
- 未：未実施

資 料 編

答 申 書

平成23年 3月24日

遠別町教育委員会 様

第5次遠別町社会教育中期計画
策定委員会委員長 越谷 幸男

第5次遠別町社会教育中期計画の答申について

平成22年7月22日付けで諮問されました標記計画の策定について審議するにあたり、当委員会は、3部会（社会教育活動部会、文化活動部会、スポーツ活動部会）を設置し、慎重に審議した結果、関係事項を付記し、別添「ともに学び ともに創る えんべつの未来」のとおり答申します。

本答申は、遠別町社会教育の現状と課題をふまえながら、長期的展望に立った「ともに学び ともに創る えんべつの未来」をすすめるため、遠別の地域性を最大限に生かした社会教育の推進をめざして策定したものであります。

今後、社会教育を推進するにあたり、本答申の趣旨が生かされ、「明日の遠別をつくる人づくり」をめざし、未来に向け、新しい視点に立った各種事業の展開に期待するものであります。

諮 問 文

遠 教 社 号
平成22年 7月22日

第5次遠別町社会教育中期計画策定委員会
委員長 越谷幸男 様

遠別町教育委員会

第5次遠別町社会教育中期計画策定について諮問します。

(理 由)

本町をとりまく状況は、人口の減少、少子高齢化、経済の低迷と大変厳しい社会情勢を迎え、自治体として行財政改革の推進が求められる中において、社会教育関係予算の縮小、町民の学習ニーズも時代とともに変化し、デジタル情報化時代となり町民の学習に対する要求は益々多様化・複雑化してきています。

そのためには、町民のニーズや地域課題に対応した学習機会・学習情報の提供や学習した成果を活用することができる機会を提供するなど、町民の学習活動を総合的に支援することができるようにする必要があります。

本町は、第4次社会教育中期計画（平成18年度～22年度）による各種事業を展開してきましたが、最終年度を迎え、これら取り組みの反省・評価を基に、町民が『ふるさと「えんべつ」』を愛し、いきいきとした心のふれあうふるさとを創造するため、現在または将来に向け、地域の特性を活かした町民の視点に立った計画策定が望まれます。

生涯学習は学習活動であるとともに、重要なまちづくり活動であることから、地域課題を明確にし、町民の学習活動を広く支える第5次遠別町社会教育中期計画の策定について審議をお願いするものであります。

計画の期間 平成23年度～27年度

計画の視点

- 1 町民が主役の生涯学習
- 2 地域に根ざした生涯学習
- 3 学習成果を発揮できる環境づくり

第5次遠別町社会教育中期計画策定経過

◎自主研修（4月27日：札幌市）

○第5次社会教育中期計画策定に係る打合せ

北海道立生涯学習推進センター 管理部研修調査課

主査 阿部隆之氏 主査 薄葉 康氏

教育委員会 教育次長 松橋 秀和

◎生涯学習推進研修講座出席（6月30日～7月1日：士別市）

テーマ：住民との協働による計画策定と評価

出席者：教育委員会 社会教育主事 中島 裕司

◎事務局評価（7月8日～16日）

○第4次社会教育中期計画評価の整理

◎第1回策定委員会（7月22日）

○策定委員委嘱（委員長、副委員長の選任）

○諮問

- #### ○議事
- ・計画の基本的視点について
 - ・策定委員会の組織について（部会構成）
 - ・策定計画について（日程）
 - ・前回計画の評価について
 - ・現状報告

○研修会

- ・社会教育中期計画策定にあたって

講師：北海道立生涯学習推進センター

管理部研修調査課 主査 阿部隆之氏

◎アンケート調査票作成（9月1日～14日）

◎アンケート調査

○策定委員へのアンケート調査（9月15日～27日）

○一般町民へのアンケート調査（9月22日～10月6日）

○児童生徒へのアンケート調査（9月22日～10月6日）

◎アンケート調査のまとめ

- 策定委員アンケート（10月12日～15日）
- 一般町民アンケート（11月1日～25日）
- 児童生徒アンケート（11月1日～12月6日）
- 事務局にて作業

◎第2回策定委員会（1月27日）

- アンケート結果について
 - ・策定委員アンケート
 - ・町民アンケート（一般町民、児童生徒）

○研修会

- ・ワークショップ「遠別町が目指す社会教育」

ファシリテーター：北海道立生涯学習推進センター

管理部研修調査課 主査 阿部隆之氏

※ 各部会のワークショップ形式により、意見を出し合う。

◎事務局会議（3月2日）

- 第2回策定委員会の結果から、計画の中核を決定する。
- 計画の具体的なフレームを決定する。

◎第3回策定委員会（3月14日）

- 答申書原案作成

◎答申書原案の確認

- 体育指導委員会議（3月15日）
- 社会教育委員会議（3月23日）

◎教育委員会へ答申（3月24日）

第5次遠別町社会教育中期計画策定委員会 第1回策定委員会

日時：平成22年 7月22日（木）
午後6時30分～

場所：遠別町生涯学習センター マナピィ・21

1 委嘱状交付

2 教育長あいさつ

教育長 善田 隆

3 委員長・副委員長選任

委員長 越谷 幸男 氏（社会教育委員長）

副委員長 松田 吉和 氏（体育指導委員長）

4 諮問

教育委員会より策定委員会へ諮問

5 議事

- (1) 計画の基本的観点について
- (2) 策定委員の組織について（部会構成）
- (3) 策定計画について
- (4) 前回計画の評価・現状報告について

6 研修会

講演「計画づくりと住民の関わり」

講師 北海道立生涯学習推進センター

管理部研修調査課 主査 阿部 隆之 氏

◎ガイダンス

ワークのねらい、進め方など

- ねらい
- ・社会教育中期計画の意義と策定委員の役割の理解
 - ・遠別町の社会教育の現状と課題の確認
 - ・次期計画のテーマのための目標の検討

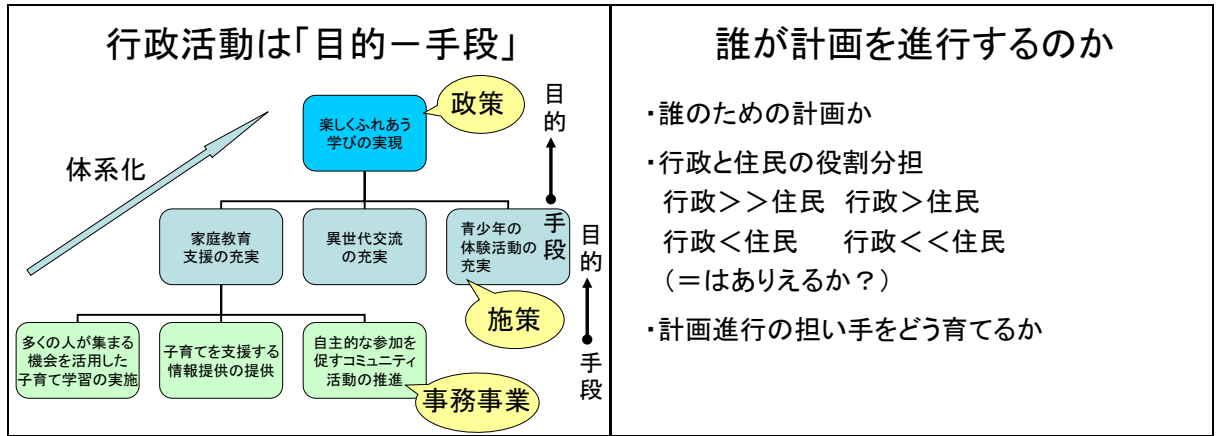
- 流れ
- ・社会教育中期計画の意義と策定委員の役割の説明
 - ・事務局の評価をもとに、現状と課題の検討
 - ・次期計画のテーマのための目標の検討



(1) 社会教育計画に関する講義

- ① 「遠別町の社会教育の気になる点」をグループ内で交流する。
 - ・ A 4 用紙に書いて発表する。（自己紹介を含めて）
- ② 「社会教育計画」について

<h3 style="text-align: center;">社会教育計画の位置づけ</h3>	<h3 style="text-align: center;">新たな計画づくりの進め方</h3>
<h3 style="text-align: center;">計画の基本要素</h3>	<h3 style="text-align: center;">現状把握</h3> <p style="text-align: center;">過去 → 現在 + 未来</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 20%;"> なぜ～ 過去の経緯も知る </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 50%;"> ・数える～量として把握できるもの ・比べる～過去からの変化 他地域との比較 ・たずねる～当事者に聞く </div> </div> <p style="text-align: center; border: 1px solid gray; padding: 5px;">ウオントズ≠ニーズ</p>
<h3 style="text-align: center;">現状(課題)から目標設定へ</h3>	<h3 style="text-align: center;">目標設定</h3> <p><input type="checkbox"/> 右肩上がりを前提とするか</p> <p><input type="checkbox"/> 循環型を前提とするか</p>
<h3 style="text-align: center;">方法選択</h3> <p><input type="checkbox"/> 現状への対応</p> <p><input type="checkbox"/> 予想される課題への先手</p>	<h3 style="text-align: center;">政策の体系化と事務事業の関係</h3>



※研修資料より抜粋

(2) 目標設定に関するワーク

①あらためて「社会教育の現状の中で気になる点」をひとつA4用紙（下半分）に書く。

「今は、○○○…」→現状

②①の上半分に、①に対して理想とする状態を書く。

「本当は、○○○…」→理想

③A4用紙に書いた内容をグループ内で交流する。

④各グループで話した内容を全体で交流する。

A：「青年活動が見えてこない」（様々な団体の青年部）

B：「セブンイレブンがあったらいいな」（便利さ）

- ・輸送などのシステムの問題
- ・若者の働き場所

C：「思いつかない」

- ・思いつかないこと自体がダメ
- ・自分のことで精いっぱい、無関心

D：「スポーツ少年団の人数が気になる」

- ・競技として成り立たない



◎計画策定 ⇒ 優先順位を決める

◎教育として 「消費型」 or 「生産型」

◎資源を 「奪い合う」 or 「分け合う」

第5次遠別町社会教育中期計画策定委員会 第2回策定委員会

日時：平成23年 1月27日（木）
午後6時30分～

場所：遠別町生涯学習センター マナピィ・21

- 1 アンケート結果について
 - ・策定委員アンケート
 - ・町民アンケート（一般町民、児童生徒）

2 ワークショップ

「遠別町が目指す社会教育」

ファシリテーター 北海道立生涯学習推進センター

管理部研修調査課 主査 阿部 隆之 氏

◎ガイダンス

ワークのねらい、進め方など

- ねらい
- ・遠別町社会教育の目指す姿（目標）を明らかにする
 - ・目指す姿を達成するアイデア（方策）を探る
- 流れ
- ・遠別町の将来像と社会教育の役割の検討、合意形成
 - ・目指す姿を達成するアイデア（方策）の検討

(1) 最近の遠別の状況の交流（話し合いの導入）

- ① 〈うれしかった出来事〉や〈気になる出来事〉をA3用紙に書く。

昨年、遠別の（ ）で（ ）だった。

昨日、遠別の（ ）で（ ）だった。

地域や学校、家庭、
団体などで

- ②書いた内容を部会内で発表する。
- ③各部会で発表されたことを簡単に紹介する。



(2) 遠別の理想像

- ①遠別の理想像を1人3つ以上考えて、付箋紙に書く。
「〇〇が〇〇している」
 - ・できるだけ具体的に
- ②①の内容を部会内で発表する。
 - ・1つ発表したら次の人へ

- ③②の内容を部会内でベスト10を作成する。
- ・部会内で合意しながら
 - ・順位はなくても可
 - ・ベスト10を選んだ理由、観点も明確に
- ④③の内容を全体に発表する。
- ・ベスト10を選んだ理由、観点も発表する
 - ・全体の傾向、共通している点、遠別町教育目標との比較も

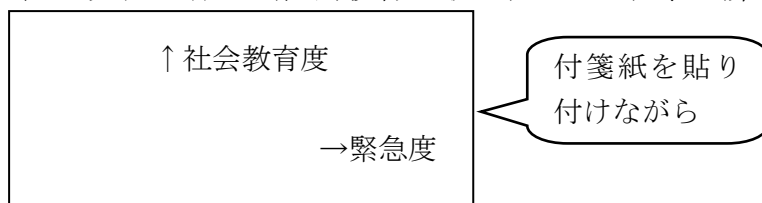
遠別の理想像 ベスト10

	第1部会① (社会教育活動)	第1部会② (社会教育活動)	第2部会 (文化活動)	第3部会 (スポーツ活動)
1	若い人たちが活躍している	町民劇・町民合唱など実現したい	住民がお互いに助け合っている	ゲームに勝つ、スポーツの魅力あふれる町！
2	子どもたち(人口)が増える	子どもの豊かな気持ちや育み、小さな子どもの面倒などを行う活動をする	みんなが笑っている	小さい子対象のスポーツ教室が数多くある町！
3	仕事が安定している	笑顔があふれ、やさしく温かい人々が多い町づくり	みんなで挨拶	スポーツ活動の一元化！
4	多くの人々が町のことに興味を持っている	子ども達が希望を持って暮らせる町	若い人が定住できるような町	町民が週1回スポーツに関われる町！
5	税金がたくさん入る	町なかに心と体を癒せる自然な空間	ボランティアによる町づくり	町がスポーツクラブを運営している！
6	訪れる人が多い	事故・犯罪が少ない町を守り続けたい	町外に出た子どもも帰ってくる	医療機関が充実している！
7	海水浴場が広い		若者にとって住みやすい街	旭温泉♨️が近くにある！
8	本屋がある		老人にやさしい町	観光スポットが多くある！
9	老後が安心できる		新しい情報	あいさつができる明るい町！
10	病院が充実している		人が訪れる街	みんな笑顔で活気あふれる町！



(3) 次期計画への焦点化

- ①国、道の社会教育に関する動向の説明
- ②(2)の発表内容を〈社会教育で取り組むべき〉、〈緊急度〉で分類する。



- ③②の内容を全体で確認する。

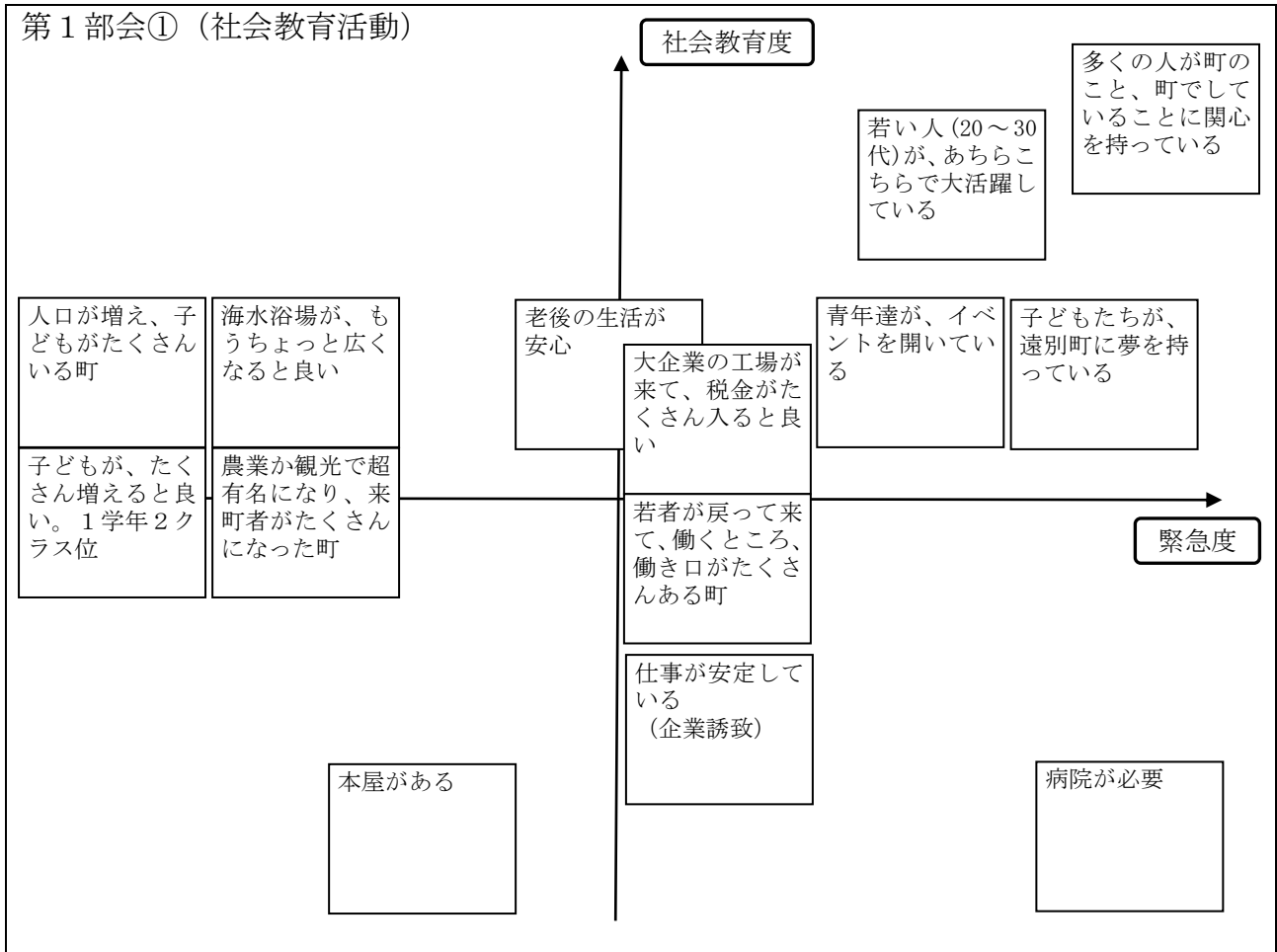
遠別の理想像「ベスト10」から
「社会教育で取り組むべき」、「緊急度」が高いもの

<p>◎第1部会①(社会教育活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントの開催(若者中心) インタビュー、それを若者に、成人式の工夫 ・子どもが提案(町づくりについて) ・〇〇ツアーの開催(婚活) 	<p>どう発信するか? 光ケーブルを使いたい</p>
<p>◎第1部会②(社会教育活動)</p> <p>ボランティア精神を育てる → 作用「人づくり」</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活力ある人をつくる ・人が人を大事にする気持ちを育てる ・体験的な場づくりを通じて 研修会 → 人の集まっている場の利用 → 面白そう 町民大合唱 → 楽しそう ・笑顔あふれる人 ・学校と地域の協力 	
<p>◎第2部会(文化活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアによる町づくり ≡ コーディネーターの育成 <p>活性化 ↓ 住民がお互いに助け合う ↓ 明るくあいさつ</p> <p>コミュニケーション(若者への働きかけ) ↙ 自分から声をかける(あいさつに順番はない) ↘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報:ハードは整備中、ソフトをどうするか?(ケーブルテレビ) 	
<p>第3部会(スポーツ活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツセンターに来る子どもがゲーム機を持ってこない環境 ・スポーツ活動の一体化(一元化) ・各種のスポーツ種目の指導者が充実している状態 ・誰もがいつでもどこでも希望する種目ができること <p>方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者、父母会とのディスカッション ・2極化の子どもが、それぞれ選択できる環境づくり 	

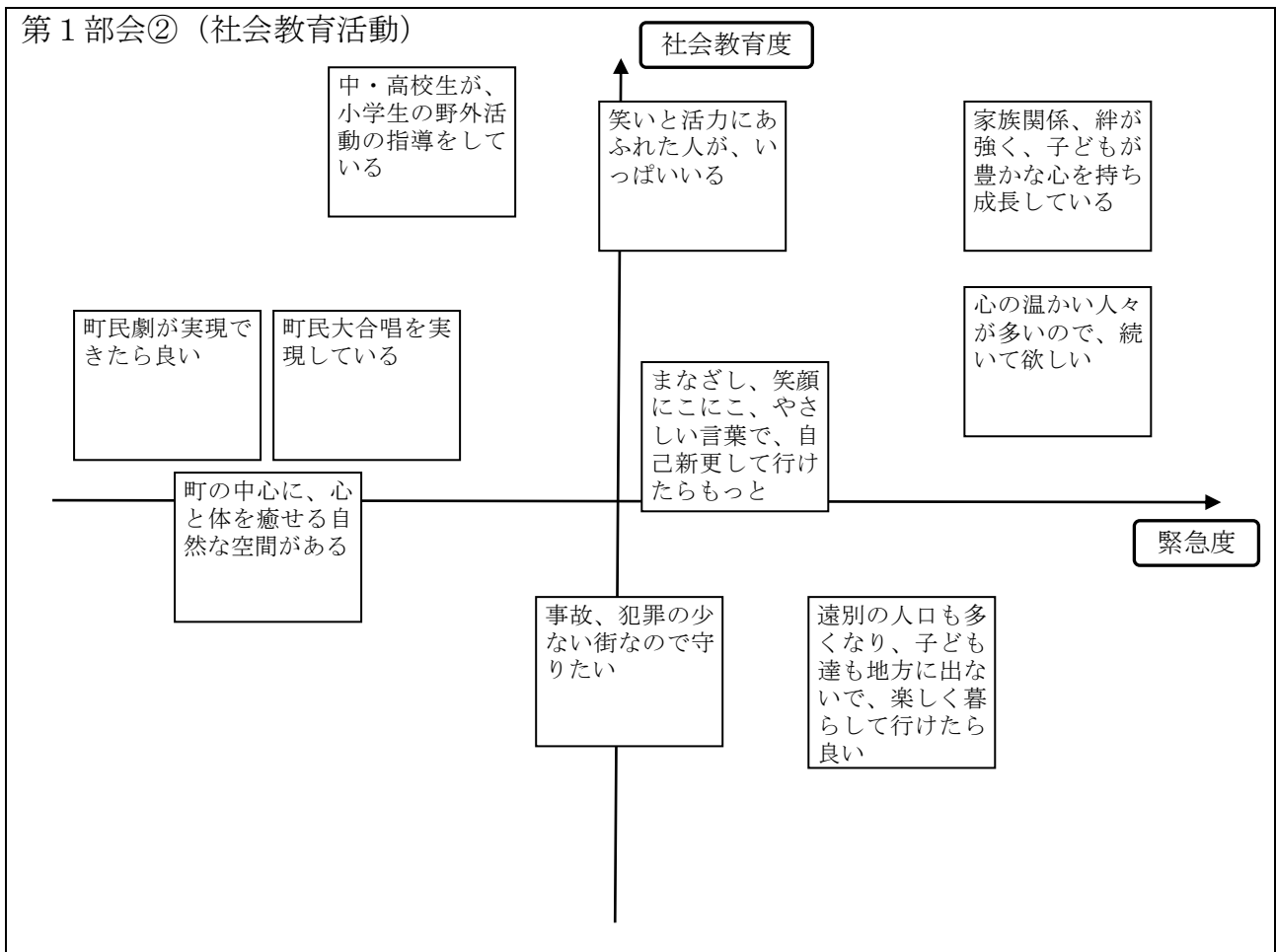
(4) まとめ

恵庭市、南幌町の事例を説明

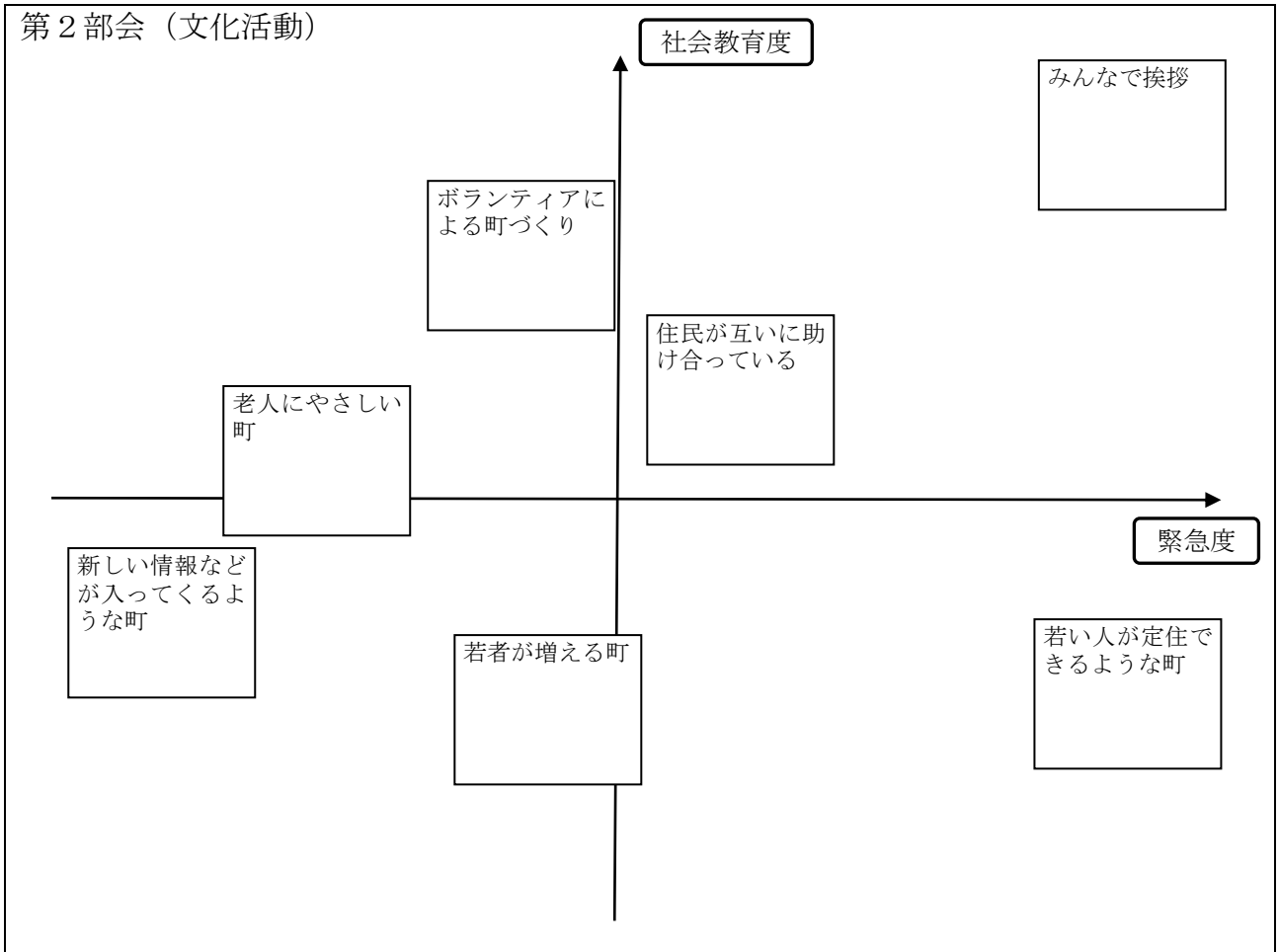
第1部会①（社会教育活動）



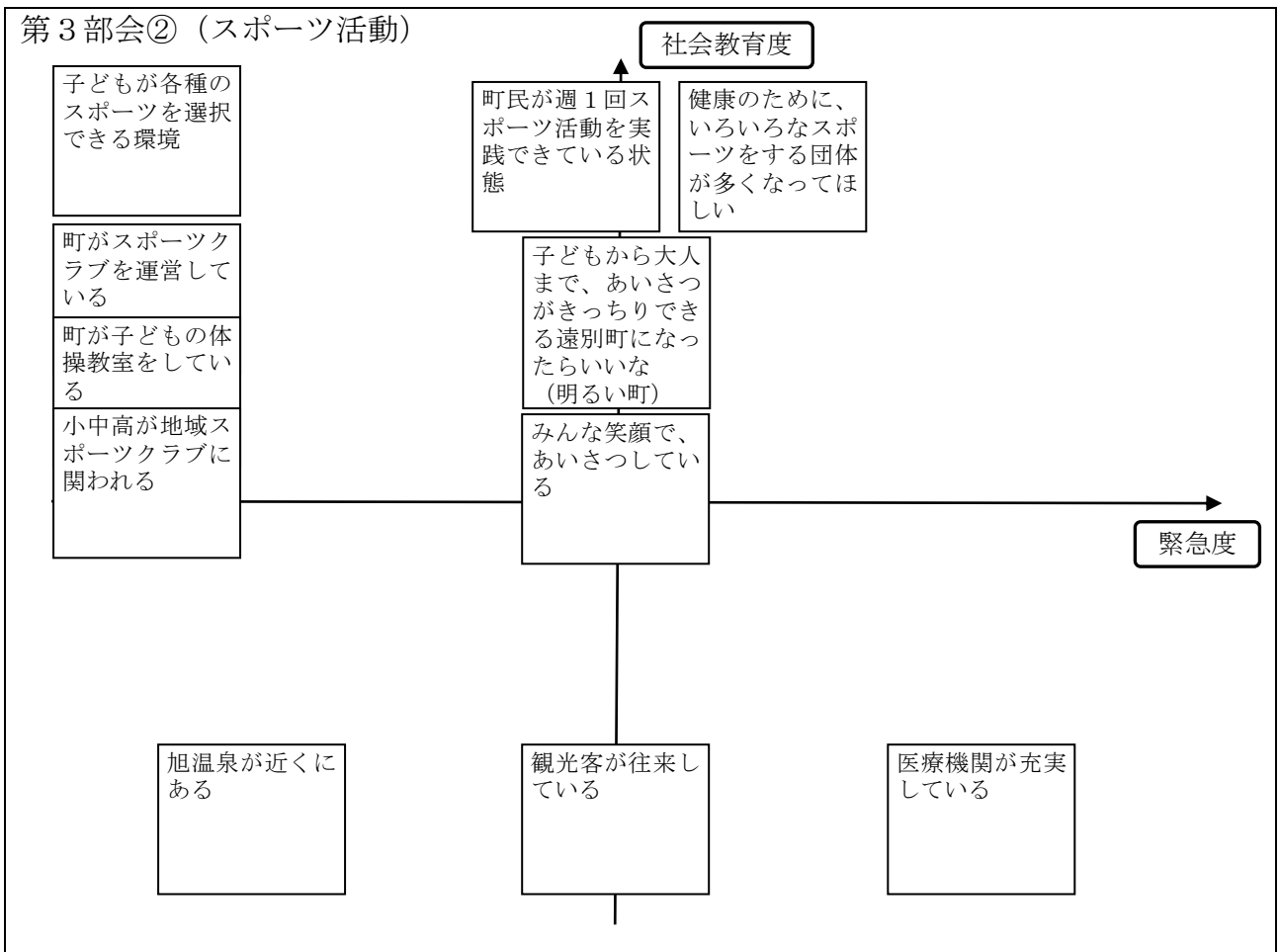
第1部会②（社会教育活動）



第2部会（文化活動）



第3部会②（スポーツ活動）

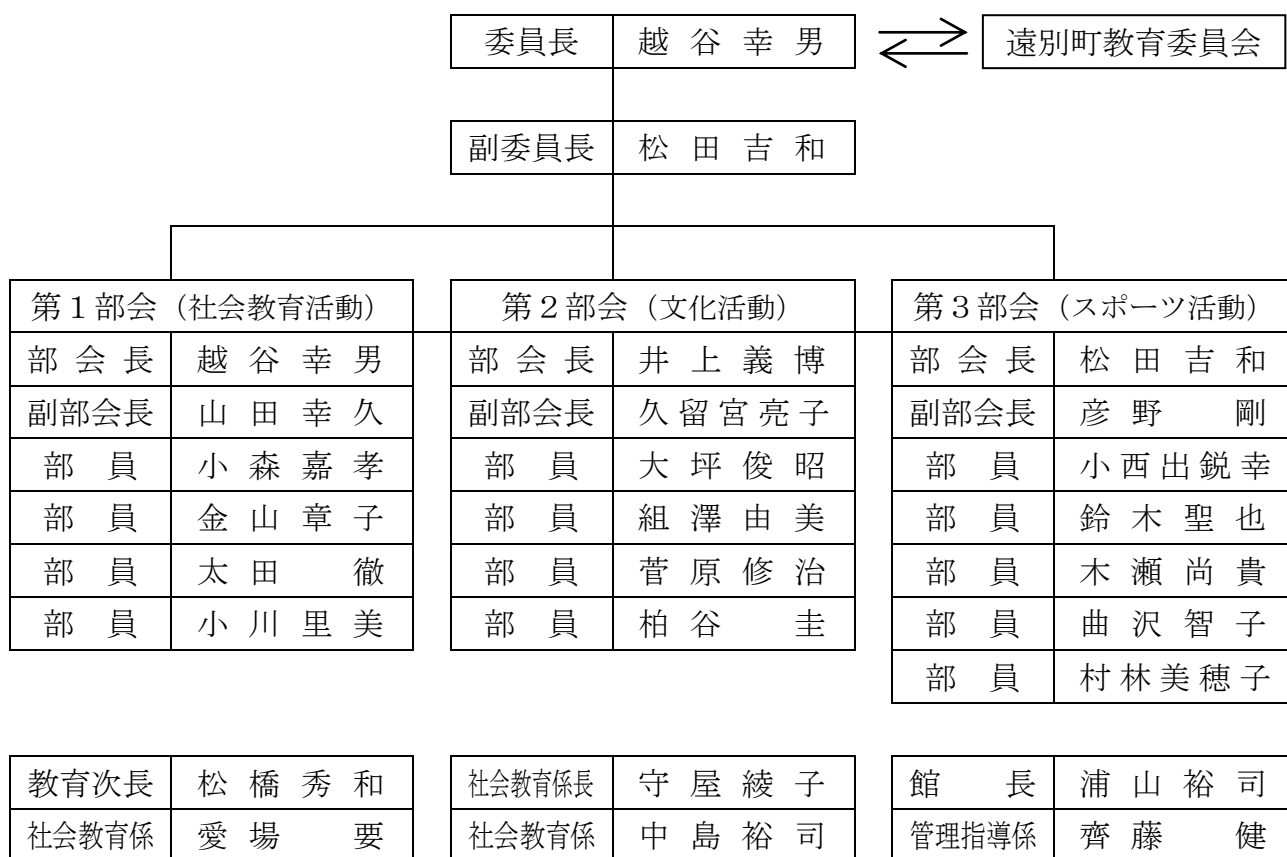


第5次遠別町社会教育中期計画策定委員名簿

	氏名	所属
1	越谷幸男	社会教育委員
2	山田幸久	社会教育委員
3	久留宮亮子	社会教育委員
4	大坪俊昭	社会教育委員
5	井上義博	社会教育委員
6	小森嘉孝	社会教育委員
7	金山章子	社会教育委員
8	組澤由美	社会教育委員
9	太田徹	社会教育委員
10	菅原修治	社会教育委員

	氏名	所属
11	松田吉和	体育指導委員
12	小川里美	体育指導委員
13	小西出鋭幸	体育指導委員
14	彦野剛	体育指導委員
15	鈴木聖也	体育指導委員
16	木瀬尚貴	体育指導委員
17	曲沢智子	体育指導委員
18	柏谷圭	体育指導委員
19	村林美穂子	体育指導委員

第5次遠別町社会教育中期計画策定委員会組織図



《町 民 憲 章》

わたくしたちは、潮鳴り響く日本海の幸と、緑豊かな山野に北限の美田を誇りとす
る遠別の町民です。

わたくしたちは、厳しい風雪に耐えた先人の偉業を受け継ぎ、その郷土愛を心とし、
ともに健やかに助け合い、未来に向かってはばたくまちをつくるため、この憲章を
定めます。

1. わたくしたちはつくります 自然を愛し 美しいまちを
1. わたくしたちはつくります 幸福にらせる あたたかいまちを
1. わたくしたちはつくります 健康で働ける 豊かなまちを
1. わたくしたちはつくります 文化を高め 明るいまちを
1. わたくしたちはつくります 未来に向かってのびる 希望あふれるまちを

[昭和57年3月制定]

《さわやかスポーツの町》

【宣言全文及び宣言項目】

わたくしたち町民は、生涯を通じてスポーツに親しみ“こころ”と“からだ”をき
たえ、健康でしあわせな生活を送るため『さわやかスポーツの町』を宣言します。

- 1 生活の中でスポーツを楽しみ“さわやかな汗を”
- 1 太陽と緑の大地のもとで“さわやかな心を”
- 1 ひとびとのふれあいを深め“さわやかな笑顔を”
- 1 スポーツを通して明るく住みよい“さわやかな町を”

[平成2年9月26日制定]

